

渡り廊下屋根 スカイパス・片支持タイプ 施工説明書

- この度は、当社製品をご採用いただき誠にありがとうございます。
商品を正しく安全に組立・施工していただくために、この施工説明書をよくお読みの上、作業を行ってください。
- 本説明書に示した注意事項は、商品の性能・機能および強度や安全性を確保する上での重要な内容です。
施工にあたっては必ずお守りください。
- 施工は専門業者が行ってください。専門知識のない方が施工されますと不具合発生の原因となることがあります。
- この説明書は施工後必ず施工主様へお渡しください。

注意事項

施工にあたっては次の点をご確認ください。

◎設置場所・位置について



- ガス給湯器などの熱や排気ガスが製品に直接当たる、またはこもるような場所に設置しないでください。熱による塗装劣化・剥離（はくり）、また排気ガスによる腐食の原因になります。

◎施工時の注意事項

- モルタル用に海砂を使用されますと、多量に塩分が含まれているため、腐食の原因になりますのでご使用を避けていただくか、十分水洗いしたものをご使用ください。
- モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・珪酸ナトリウム等の入っていないものをご使用ください。
- アルミ商品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合には、ビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
- 腐食の恐れのある接着剤や化学薬品を使用する場合には、商品と接触しないようにするか接触する部分を完全に養生してください。

- 埋込柱内部にモルタルやコンクリートや水などが入らないようにしてください。柱内部の異常腐食や柱の凍結破損の原因になります。
- モルタルやコンクリートの抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になりますので、工事中に商品に付着しないようご注意ください。
- 施工時に商品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、アルミ表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
- 基礎施工は、地下埋設物（給水配管等）に影響を及ぼさないように柱位置を決めてください。
- 地盤が軟弱な場合は、柱の埋め込み深さ、フーチングの大きさを考慮してください。
- 養生期間は十分（4日～1週間）にとり、養生期間中は重いものをのせたり、振動させたりしないように指示してください。
- 改造・変更をしないでください。

この説明書に示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

絵表示	意味	絵表示	ご使用上の注意とお願い
	この表示を無視して誤った取扱いをすると使用者等が負傷する危険や物的損害の発生が予想されることを表しています。		「必ず行っていただくこと」を示しています。

⚠️ 注意

- 各ボルト・ビス類は、確実に締め付けてください。
- 無理にボルト・ビスを締め付けしないでください。破損の原因となります。



傾斜・コーナー納まりの場合は、各タイプの施工説明書を合わせて参照してください。

- ・傾斜納まり・・・傾斜用ユニット [ME-1751]
- ・直角コーナー・・・直角コーナーユニット [ME-1752]
- ・Rコーナー・・・Rコーナーユニット [ME-1753]

もくじ

梱包明細.....	2	8. 中骨の取付け.....	21
各部の名称.....	3	8-1 施工前の確認.....	21
納まり図.....	4	8-2 中骨の取付け.....	21
断面図・詳細図.....	8	9. 屋根材の取付け.....	22
1. 基礎の施工.....	9	9-1 施工前の確認.....	22
2. 柱部品の取付け.....	10	9-2 屋根材の取付け.....	22
3. 桁の取付け.....	13	10A. 雨樋の取付け（※平地納まりの場合）.....	24
3-1 平地納まりの場合.....	13	10B. 雨樋の取付け（※傾斜納まりの場合）.....	28
3-2 傾斜納まりの場合.....	14	11. 縦樋カバーの取付け（※オプション）.....	31
4. 桁の連結（※連棟・延長納まりの場合）.....	15	11-1 縦樋カバーの切断（※傾斜納まりの場合）.....	31
5. 垂木の取付け.....	16	11-2 縦樋カバーの取付け.....	32
6. 側枠の取付け.....	18	施工完了時の注意事項.....	32
6-1 施工前の確認.....	18	施工工事店様、販売店様へのお願い.....	32
6-2 側枠の取付け.....	18		
7. 桁の本締めとコンクリートの打ち込み.....	20		

梱包明細

- 施工前に、部材数量および部品数量を確認してください。また、品質に支障のある損傷が無いか確認してください。
- 説明書に記載している部材・部品（ビス含）以外は使用しないでください。

表内の（ ）は個数を表しています。※は奥行または間口によって個数が異なります。

梱包名称		梱包内容
片支持柱セット	2本入り	標準柱 標準柱 (2)
		長柱 長柱 (2)
	1本入り	標準柱 標準柱 (1)
		長柱 長柱 (1)
片支持ジョイナーセット		片支持ジョイナー (1)・M8×25六角セムスボルト (12) 柱固定裏板 (4)・M10×25六角セムスボルト (8) 桁・桁受け梁ブラケット (1)・φ4×19セルフドリリングビス (4)・片支持梁キャップ (2)・φ4×12トラスタッピン3種 (4)
傾斜用束柱セット		傾斜用束柱 (上下各2)・M10×50六角ボルト (2)・M10用平座金 (4)・M10用バネ座金 (2)・M10袋ナット (2) 桁取付裏板 (2)・M8×25六角セムスボルト (4)・φ6×25トラスタッピン3種 (8)・アンカー棒 (2)
桁取付部品セット		アンカー棒 (2)・桁取付ブラケットA (2)・φ6×20皿タッピン3種 (8) M8×18六角セムスボルト (4)・桁ブラケット用裏板 (2)
桁受け梁セット	2本入り	桁受け梁 (2)
	1本入り	桁受け梁 (1)
桁・中骨セット	奥行：58	桁 (左右各1)・中骨 (24)
	奥行：36	桁 (左右各1)・中骨 (15)
	奥行：29	桁 (左右各1)・中骨 (12)
垂木セット	4本入り	垂木 (4)・押え材 (4) 屋根材取付用ビスセット (1) [φ4×12ゴムワッシャ付セルフドリリングビス (24/36/45/60 ※)] 垂木ブラケットセット (2) [垂木ブラケット (4)・φ5×20トラスタッピン3種 (16)] 垂木排水部品セット (2) [垂木排水部品 (4)・φ4×13セルフドリリングビス (8)]
	3本入り	垂木 (3)・押え材 (3) 屋根材取付用ビスセット (1) [φ4×12ゴムワッシャ付セルフドリリングビス (24/36/45 ※)] 垂木ブラケットセット (1) [垂木ブラケット (6)・φ5×20トラスタッピン3種 (24)] 垂木排水部品セット (1) [垂木排水部品 (6)・φ4×13セルフドリリングビス (12)]
	2本入り	垂木 (2)・押え材 (2) 屋根材取付用ビスセット (1) [φ4×12ゴムワッシャ付セルフドリリングビス (16/24/36 ※)] 垂木ブラケットセット (1) [垂木ブラケット (4)・φ5×20トラスタッピン3種 (16)] 垂木排水部品セット (1) [垂木排水部品 (4)・φ4×13セルフドリリングビス (8)]
側枠セット		側枠 (2)・押え材 (2) 屋根材取付用ビスセット (1) [φ4×12ゴムワッシャ付セルフドリリングビス (16/24/36 ※)]
縦雨樋セット		縦樋 (2)
桁連結横樋セット		連棟樋用セット部品 (1) [連棟樋端部キャップ (2)・連棟樋取付金具 (4)・φ4×16ゴムワッシャ付セルフドリリングビス (8) M4×12トラスタッピン3種 (12)・落し口パッキン (4)・落し口 (2)・水抜き穴塞ぎ (2)・M8ナット (4) M8用平座金 (4)・M8用バネ座金 (4)・菱形ボルト (4)]
標準部品箱	単体用	桁端部ブラケット (左右各2)・φ4×14トラスタッピン3種 (12) 孔フサギシール (4)・φ5×20トラスタッピン3種 (8) 雨樋部品セット (両支持2・片支持1) [落し口パッキン (2)・落し口 (1)・エルボ88° (2) 固定バンドA (3)・固定バンドB (3)・水抜き穴塞ぎ (1)・接着剤 (1)・φ4×12トラスタッピン3種 (4) φ4×19セルフドリリングビス (3)・ドレンエルボ (1)] 施工説明書 [ME-1750] (1)・取扱説明書 [MET-1001] (1)
	連棟・直線用	桁連結スリーブ (2)・φ4×19細目セルフドリリングビス (16)・雨樋連結裏板 (2) φ4×14トラスタッピン3種 (4)・止水パッキン (桁連結部) (2)・桁連結部カバー (コーナー用) (2) 雨樋部品セット (両支持2・片支持1) [落し口パッキン (2)・落し口 (1)・エルボ88° (2) 固定バンドA (3)・固定バンドB (3)・水抜き穴塞ぎ (1)・接着剤 (1)・φ4×12トラスタッピン3種 (4) φ4×19セルフドリリングビス (3)・ドレンエルボ (1)]
	連棟・傾斜用	桁連結スリーブ (2)・φ4×19細目セルフドリリングビス (16)・雨樋連結裏板 (2) φ4×14トラスタッピン3種 (4)・止水パッキン (桁連結部) (2)・止水パッキン (傾斜用) (2) 桁連結部カバー (コーナー用) (2) 傾斜用雨樋部品セット (両支持2・片支持1) [落し口パッキン (2)・落し口 (1)・エルボ88° (2) 固定バンドA (3)・固定バンドB (3)・水抜き穴塞ぎ (1)・接着剤 (1)・φ4×12トラスタッピン3種 (4) φ4×19セルフドリリングビス (3)・雨樋ジャバラ (1)・ジャバラパイプカバー (1)]
屋根材	3枚入り	屋根材 (3)
	2枚入り	屋根材 (2)

別売品

表内の（ ）は個数を表しています。

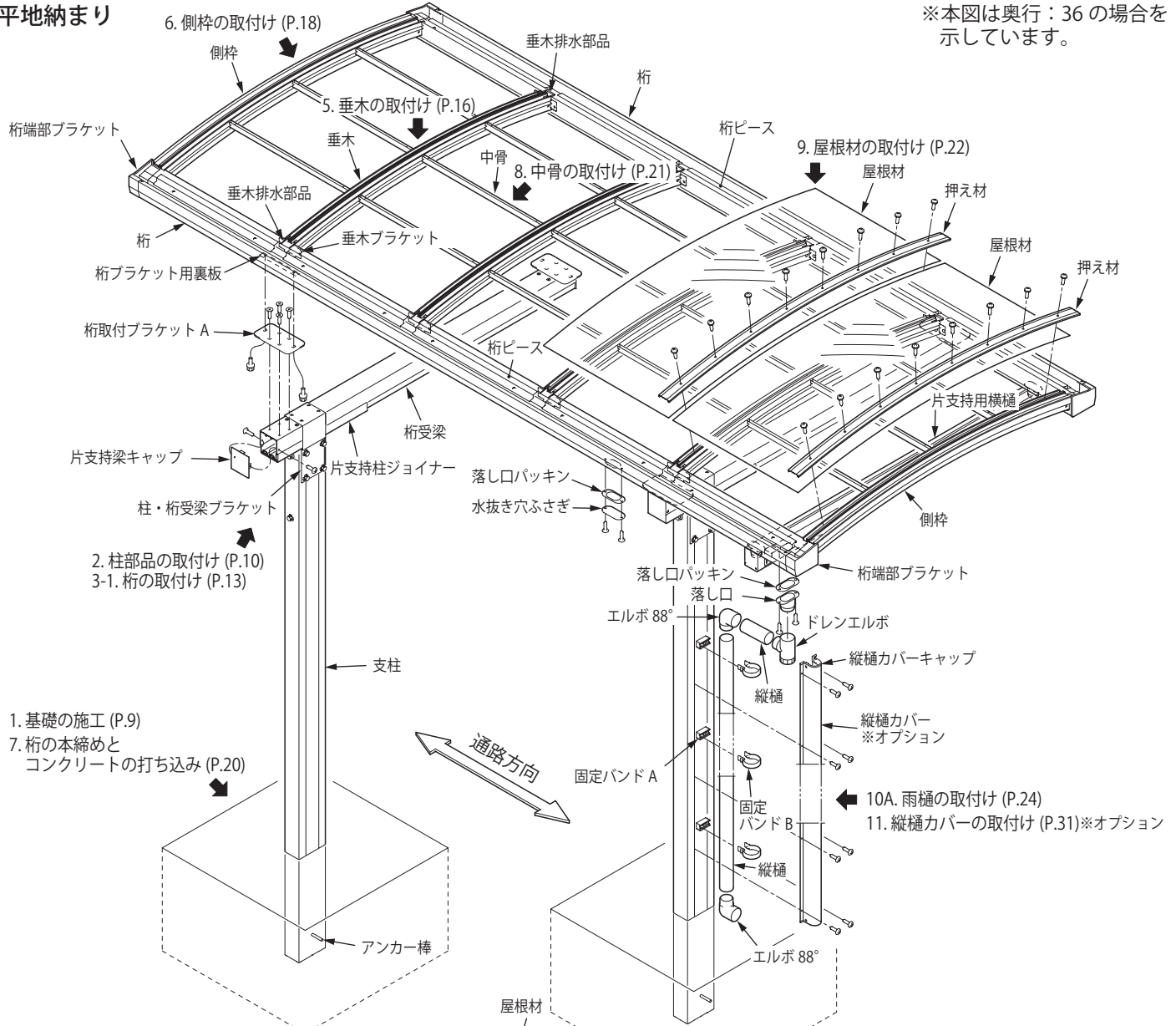
梱包名称	梱包内容
縦樋カバーセット	縦樋カバー (1)・縦樋カバーキャップセット (1) [縦樋カバーキャップ (2)・φ4×8トラスタッピン3種 (4)・φ4×19セルフドリリングビス (12)]

各部の名称

- 組立施工および調整の説明項目を示しています。組立前に確認してください。
- 納まり・傾斜などによって、施工のときに参照するページが異なります。
- ※ () 内は説明ページを示しています。

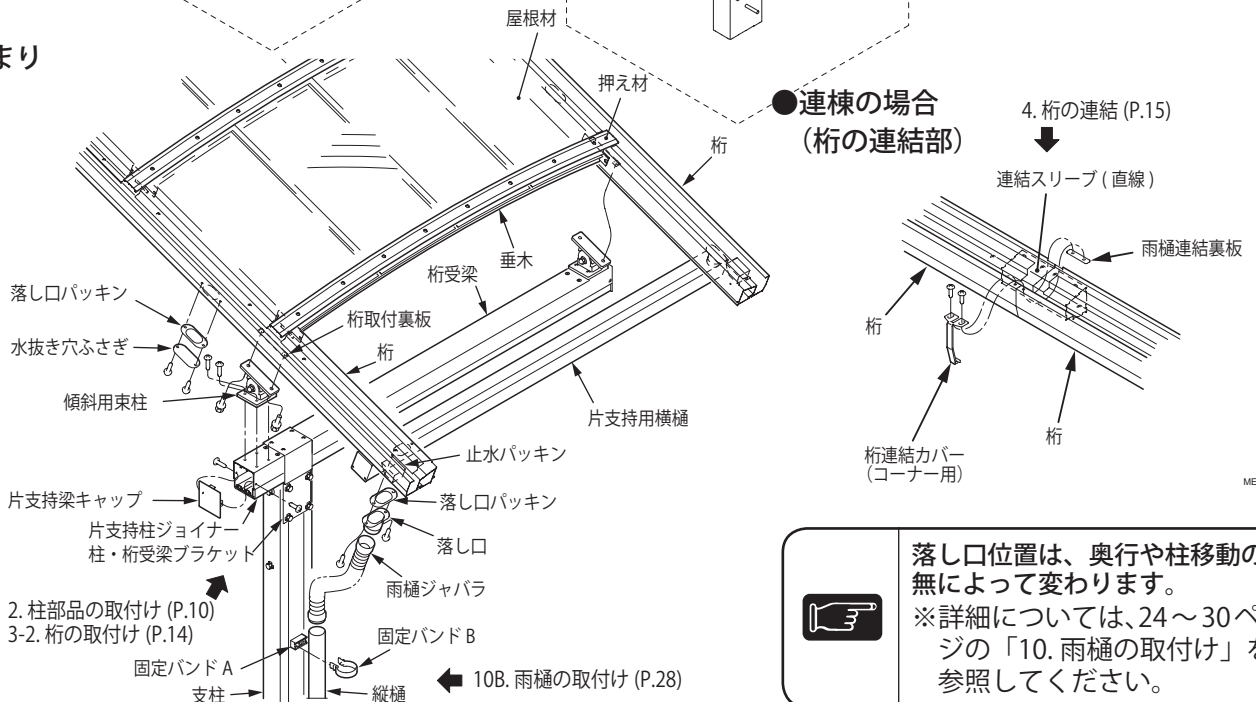
●平地納まり

※本図は奥行：36 の場合を示しています。



●傾斜納まり

●連棟の場合 (桁の連結部)



落し口位置は、奥行や柱移動の有無によって変わります。
 ※詳細については、24～30ページの「10. 雨樋の取付け」を参照してください。

納まり図

●施工前に必ず確認してください。

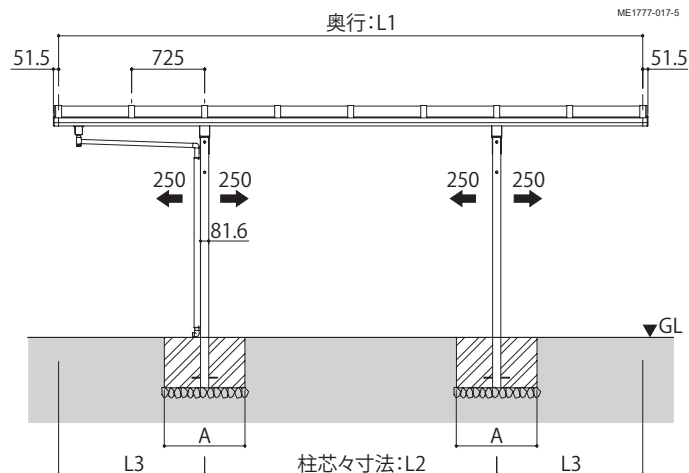
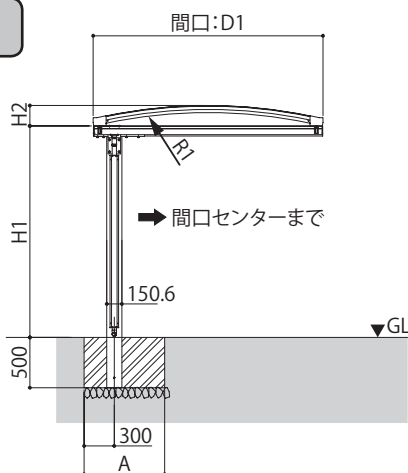


- 桁 1 本につき、柱 2 本が標準です。
- 奥行:29 は延長納まりのみとなります。桁 1 本につき、柱は 1 本になります。(傾斜ジョイントに連結する場合は、柱が 2 本必要になります。)
- 平地納まりの場合は、柱を ± 250mm まで移動することができます。
- 傾斜納まりの場合は、柱を ± 100mm まで移動することができます。

平地・単体納まり

※本図は、奥行:58、間口23の場合を示しています。

※ ←印は柱移動範囲を示しています。



●基本寸法表

奥行	L1	L2	L3
36	3625	2175	725
58	5800	2900	1450

(mm)

間口	D1	D2	R1	H2
12	1180	959	R2262	(145)
17	1680	1459	R3448	(172)
20	1980	1759	R4013	(191.5)
23	2280	2059	R4890	(203.5)

(mm)

●基礎寸法表

地耐力	A	
	標準納まり	センター柱
30 kN/ m ²	1100	750
50 kN/ m ²	1000	650

(mm)

柱の種類	H1
標準柱	2100
長柱	2500

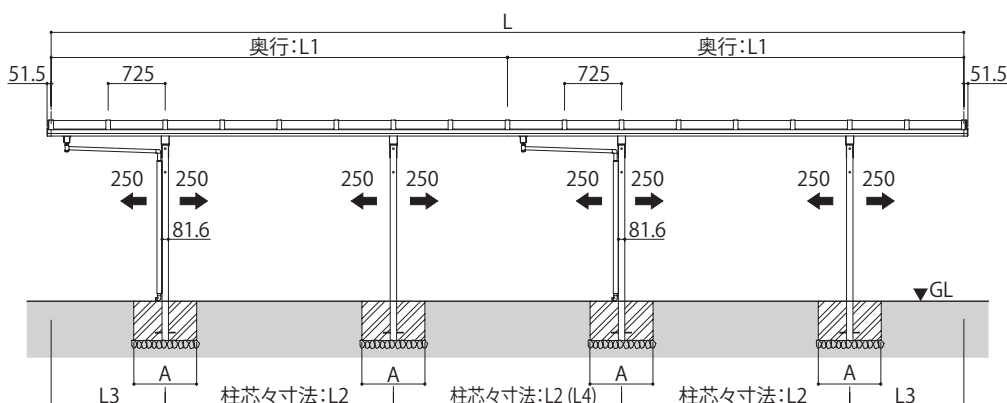
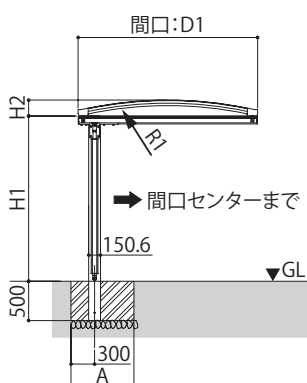
(mm)

平地・連棟納まり

※本図は、奥行:58、間口23の2連棟の場合を示しています。

※ ←印は柱移動範囲を示しています。

※ () 内は奥行:36の場合を示しています。



●基本寸法表

奥行	L	L1	L2	L3	L4
36	7250	3625	2175	725	1450
58	11600	5800	2900	1450	—

(mm)

間口	D1	D2	R1	H2
12	1180	959	R2262	(145)
17	1680	1459	R3448	(172)
20	1980	1759	R4013	(191.5)
23	2280	2059	R4890	(203.5)

(mm)

●基礎寸法表

地耐力	A	
	標準納まり	センター柱
30 kN/ m ²	1100	750
50 kN/ m ²	1000	650

(mm)

柱の種類	H1
標準柱	2100
長柱	2500

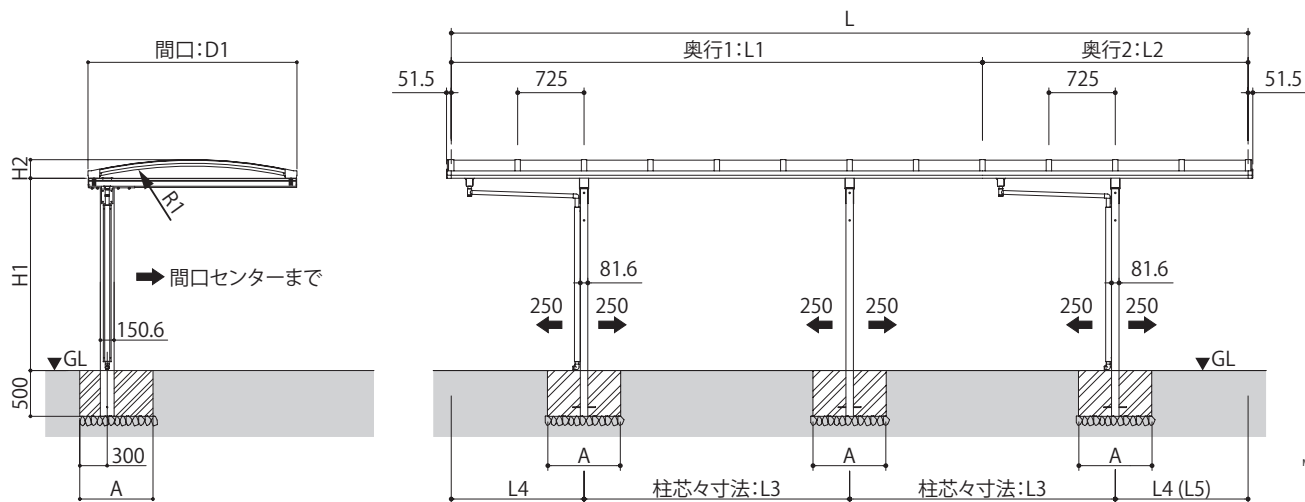
(mm)

平地・延長納まり

※本図は、奥行 58+29、間口 23 の場合を示しています。

※ ←印は柱移動範囲を示しています。

※ () 内は、奥行：36 の場合を示しています。



●基本寸法表

奥行	L	L1	L2	L3	L4	L5
36+29	6525	3625	2900	2175	725	1450
58+29	8700	5800	2900	2900	1450	—

(mm)

●基礎寸法表

地耐力	A	
	標準納まり	センター柱
30 kN/ m ²	1100	750
50 kN/ m ²	1000	650

(mm)

柱の種類	H1
標準柱	2100
長柱	2500

(mm)

間口	D1	D2	R1	H2
12	1180	959	R2262	(145)
17	1680	1459	R3448	(172)
20	1980	1759	R4013	(191.5)
23	2280	2059	R4890	(203.5)

(mm)

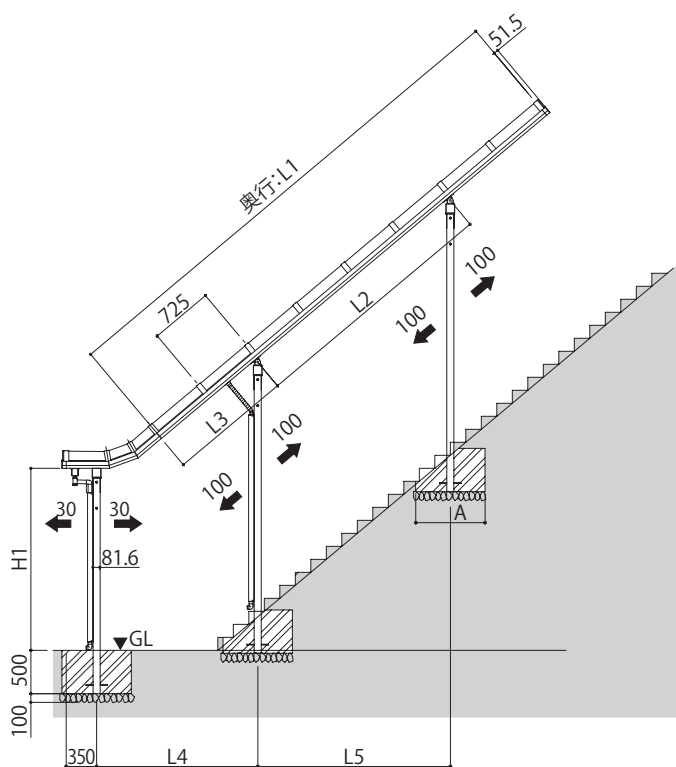
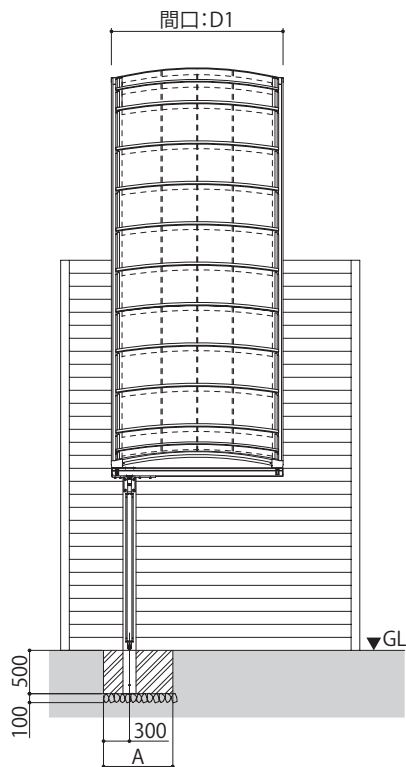
傾斜・単体納まり

※本図は、傾斜角度 40°、奥行：58、間口 23 の場合を示しています。

※ ←印は柱移動範囲を示しています。

※エンド底部の施工については、傾斜用ユニットの施工説明書 [ME-1751] を参照してください。

※奥行：36は、柱移動をする場合、雨樋の位置が変わります。(詳細は 29 ページを参照してください。)



ME1777-019-5

●基本寸法表 (mm)

奥行	L1	L2	L3
36	3625	2175	725
58	5800	2900	1450

(mm)

柱の種類	H1
標準柱	2100
長柱	2500

(mm)

間口	D1	D2
12	1180	959
17	1680	1459
20	1980	1759
23	2280	2059

●基礎寸法表 (mm)

地耐力	A	
	標準納まり	センター柱
30 kN/ m ²	1100	750
50 kN/ m ²	1000	650

●傾斜角度別寸法表 (mm)

奥行	傾斜角度	L4	L5
36	5°	1224	2167
	10°	1215	2142
	15°	1198	2101
	20°	1173	2044
	25°	1482	1971
	30°	1438	1884
	35°	1386	1782
58	5°	1947	2889
	10°	1929	2856
	15°	1899	2801
	20°	1855	2725
	25°	2139	2628
	30°	2066	2511
	35°	1980	2376
40°	1883	2222	

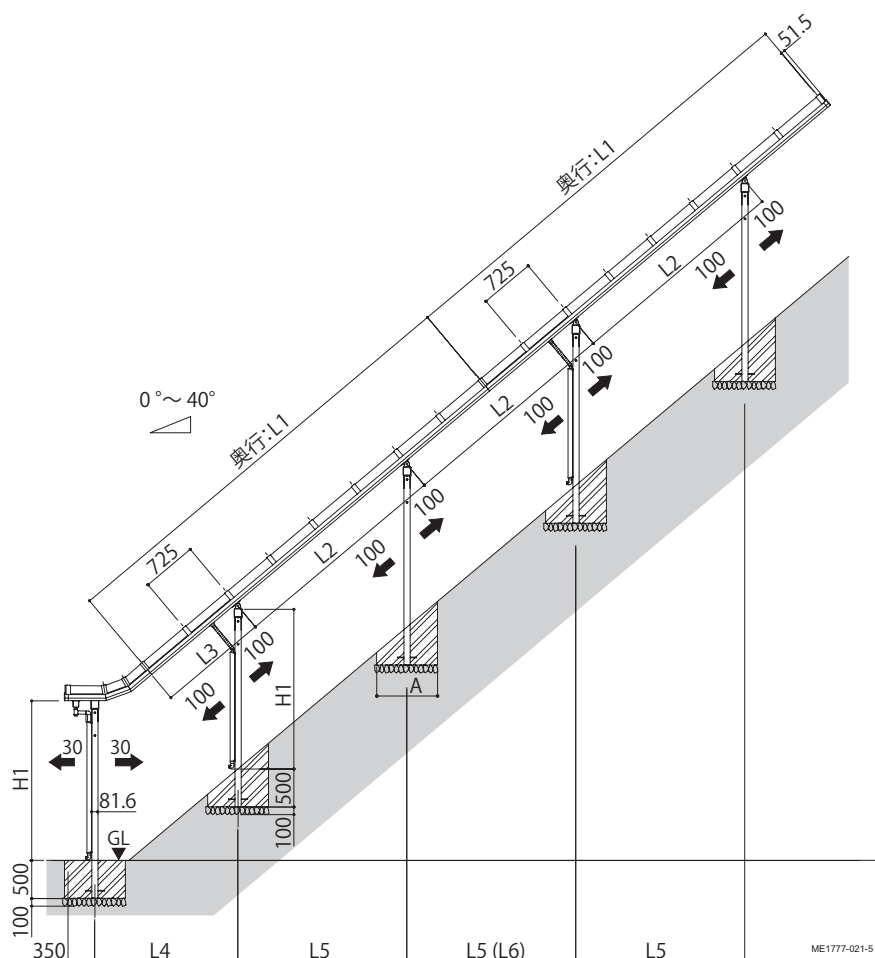
傾斜・連棟納まり

※本図は、奥行：58・間口：30の場合を示しています。

※ ←印は柱移動範囲を示しています。

※ () 内は奥行：36の場合を示しています。

※奥行：36は、柱移動をする場合、雨樋の位置が変わります。(詳細は29ページを参照してください。)



●基本寸法表

(mm)

奥行	L1	L2	L3
36	3600	2175	725
58	5800	2900	1450

(mm)

柱の種類	H1
標準柱	2100
長柱	2500

●基礎寸法表

(mm)

地耐力	A	
	標準納まり	センター柱
30 kN/ m ²	1100	750
50 kN/ m ²	1000	650

●傾斜角度別寸法表

(mm)

奥行	傾斜角度	L4	L5	L6
36	5°	1224	2167	1444
	10°	1215	2142	1428
	15°	1198	2101	1401
	20°	1173	2044	1363
	25°	1482	1971	1314
	30°	1438	1884	1256
	35°	1386	1782	1188
58	40°	1327	1666	1111
	5°	1947	2889	—
	10°	1929	2856	—
	15°	1899	2801	—
	20°	1855	2725	—
	25°	2139	2628	—
	30°	2066	2511	—
	35°	1980	2376	—
40°	1883	2222	—	

※奥行：58の場合は、L6はありません。

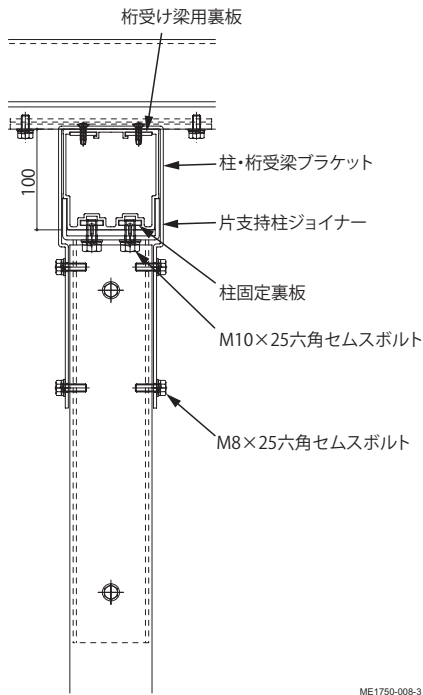
断面図・詳細図

●施工前に必ず確認してください。

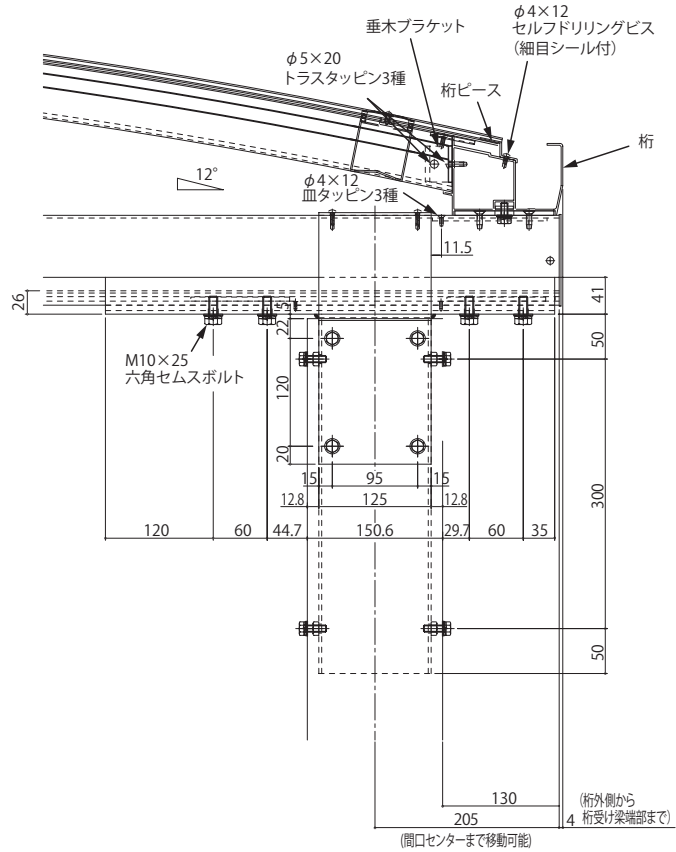
断面図

※本図は、傾斜なしの場合を示しています。

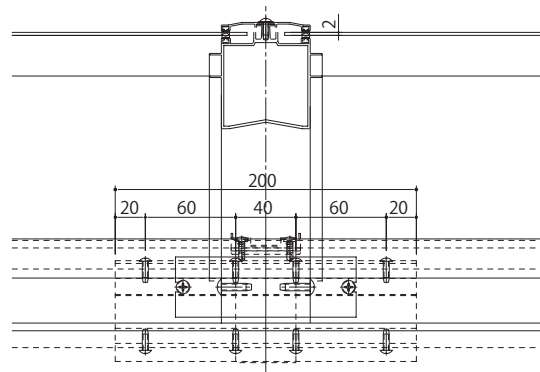
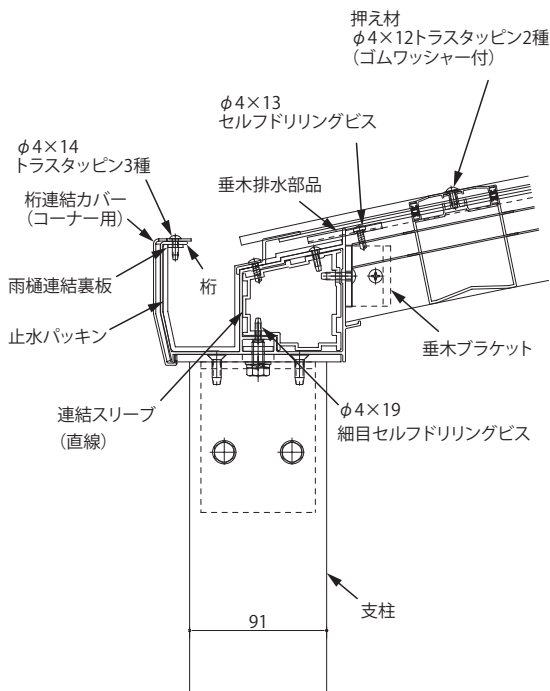
●縦断面図



●横断面図

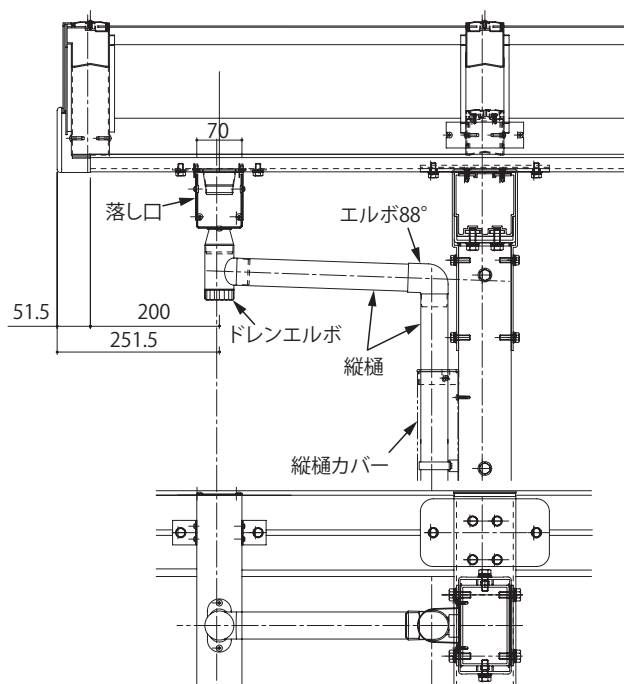
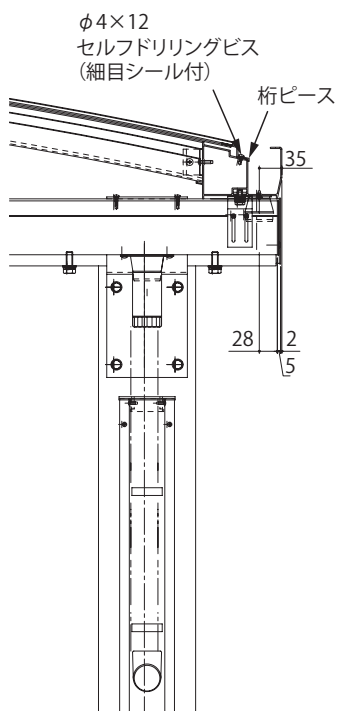


直線連結部・詳細図



雨樋部詳細図

※本図は、傾斜なしの場合を示しています。



1

基礎の施工

- 「納まり図」を参照して、柱の位置・基礎寸法を確認してください。
- 地下埋設物（給排水管など）に影響を及ぼさないように支柱の位置を決めてください。

①「納まり図」を参照して、柱埋め込み位置を出し、指定以上の基礎穴を掘ってください。

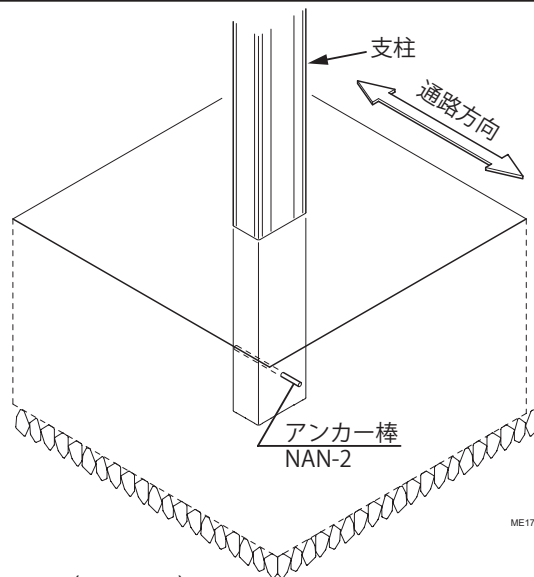
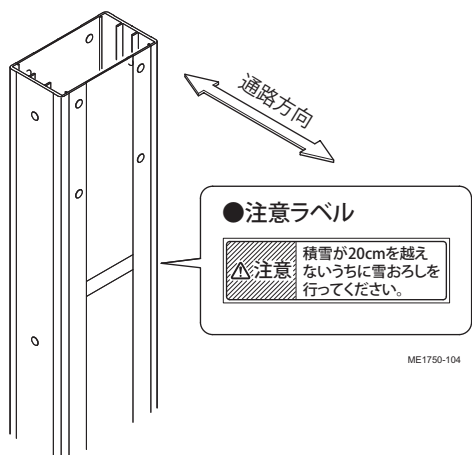
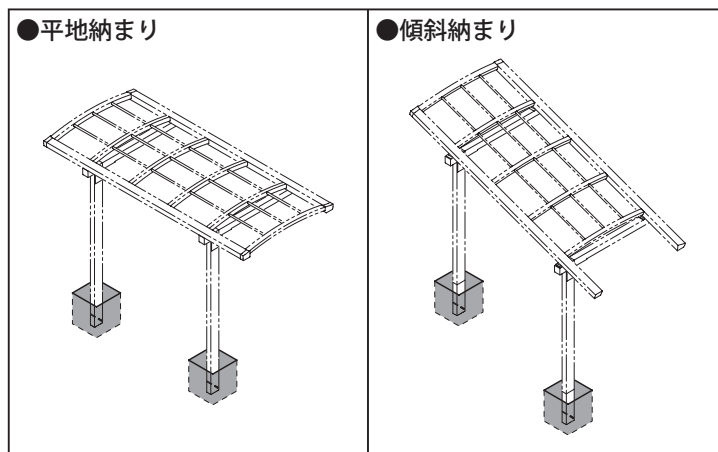
②支柱の下部にアンカー棒を差し込んでください。



- コンクリートを打込み、完全に固定されるまでは、柱・屋根先端にそえ木をしてください。
 - コンクリートの施工は、骨組み完了後に行ってください。
- ※「7. 桁の本締めとコンクリートの打ち込み」参照



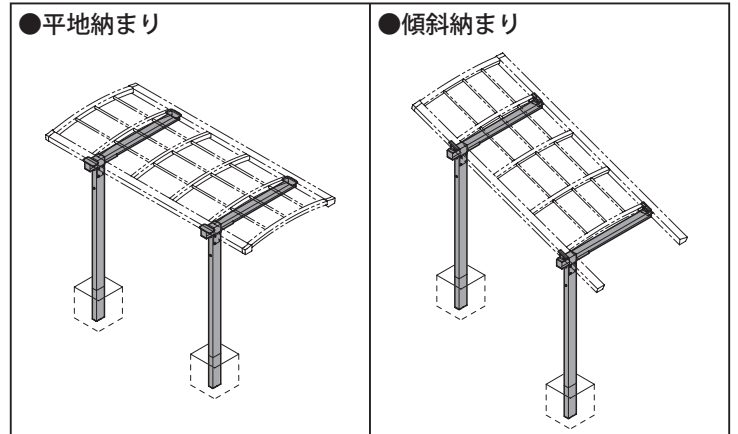
支柱の穴加工および注意ラベルを奥行方向に配置してください。



2

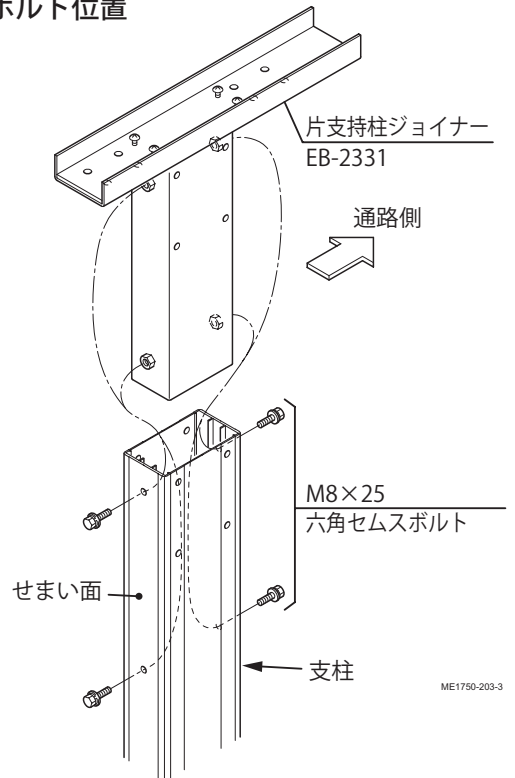
柱部品の取付け

●傾斜納まりの場合は、傾斜用束柱を使用してください。



①片支持柱ジョイナーを支柱の上部に取り付けてください。

●柱巾とボルト位置

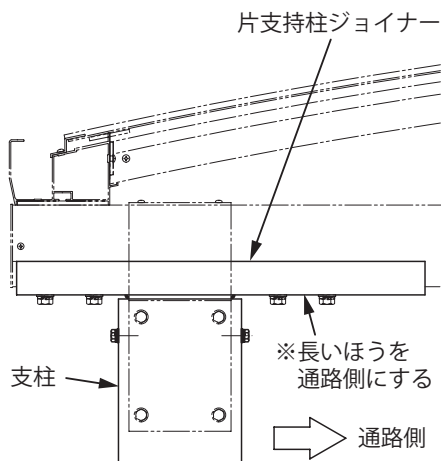


ボルトの締め付けには、インパクトドライバーを使用しないでください。
※強い力や振動でボルトが焼き付き、固着してしまふことがあります。

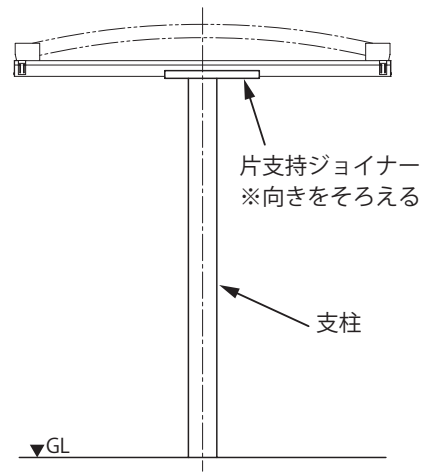


- 柱の巾のせまい面にボルト止めしてください。
- 片支持柱ジョイナーの長いほうが通路側になるように取付けてください。
- 柱位置中央の場合は、各片支持ジョイナーの向きを揃えてください。

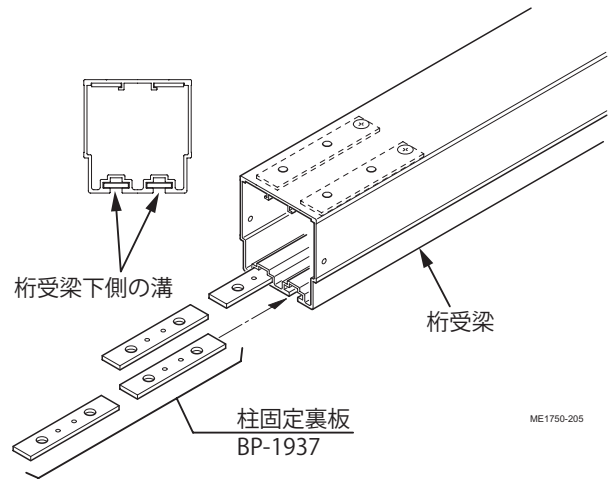
●取付方向



●柱位置中央の場合

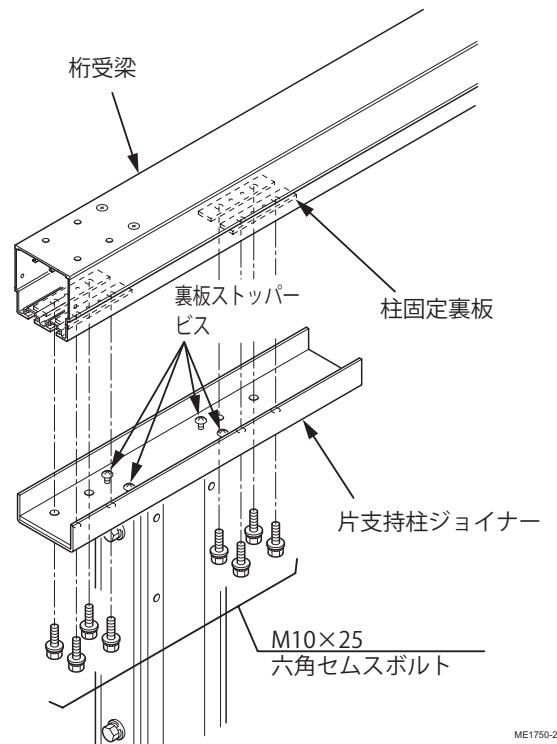
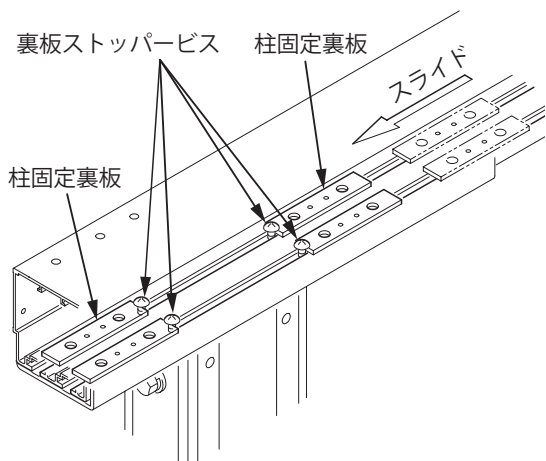


- ②桁受梁下部の2ヶ所の溝に、柱固定裏板を各2ヶ（計4ヶ）挿入してください。



- ④桁受梁を支柱上部の片支持柱ジョイナーに載せ、ボルトで仮止めしてください。

※柱固定裏板を片支持柱ジョイナーの両側からスライドさせ、裏板ストッパービスにあててください。

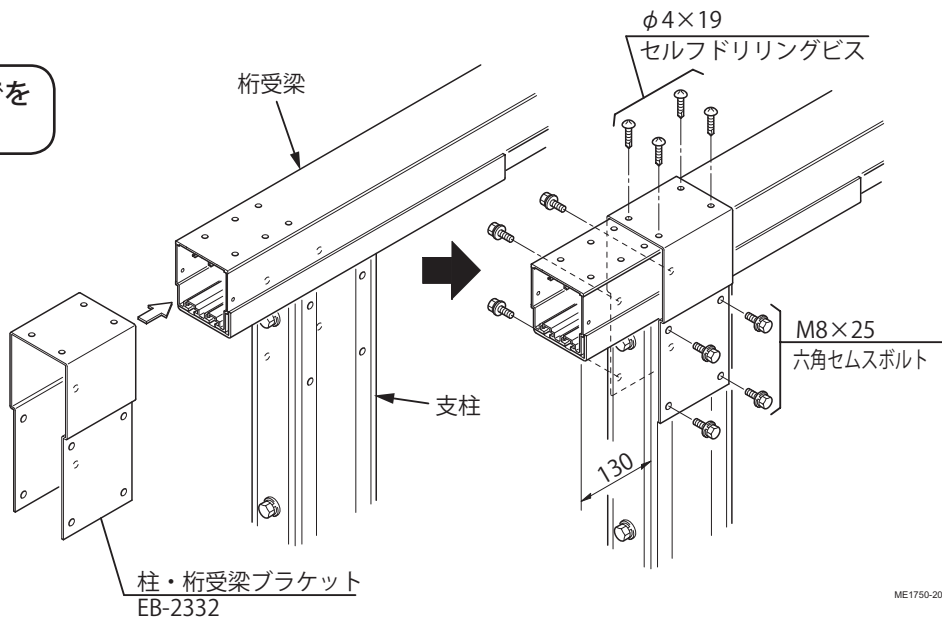
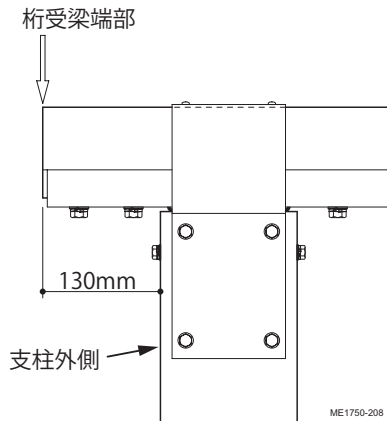


柱部品の取付け

- ④ 柱・桁受梁ブラケットをボルトで支柱に取付けてください。



支柱外側から桁受梁端部までを
130mm としてください。



- ⑤ 各ボルトを本締めし、上面をセルフドリリングビスで固定してください。

- ⑥ 平地・傾斜ごとの手順にしたがって取付けてください。

平地納まりの場合

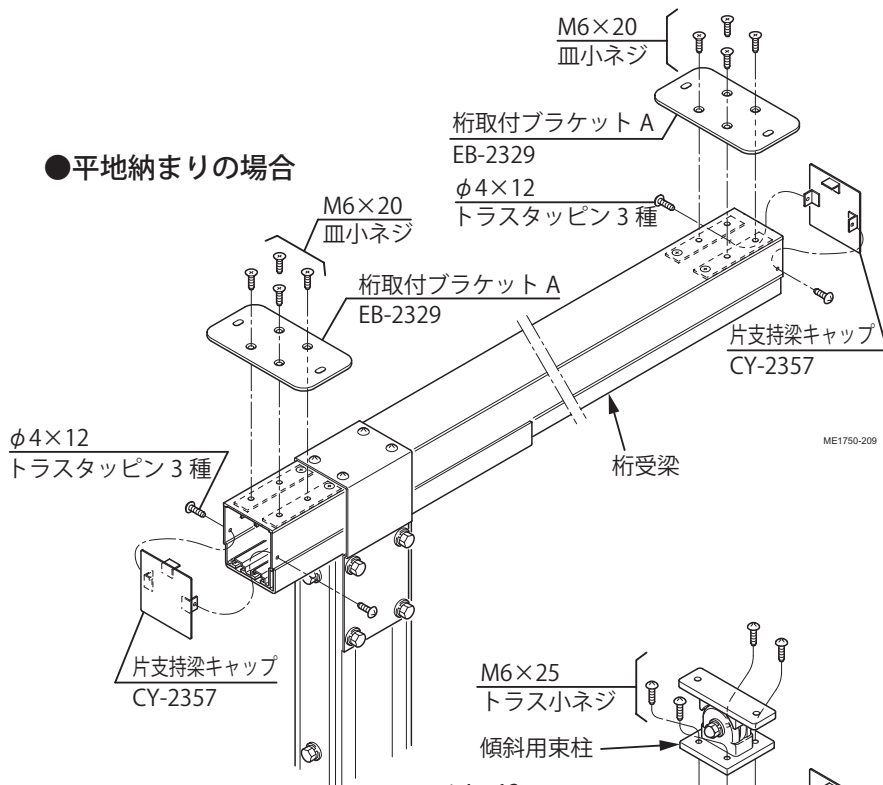
桁取付ブラケット A を桁受梁に取付けてください。

傾斜納まりの場合

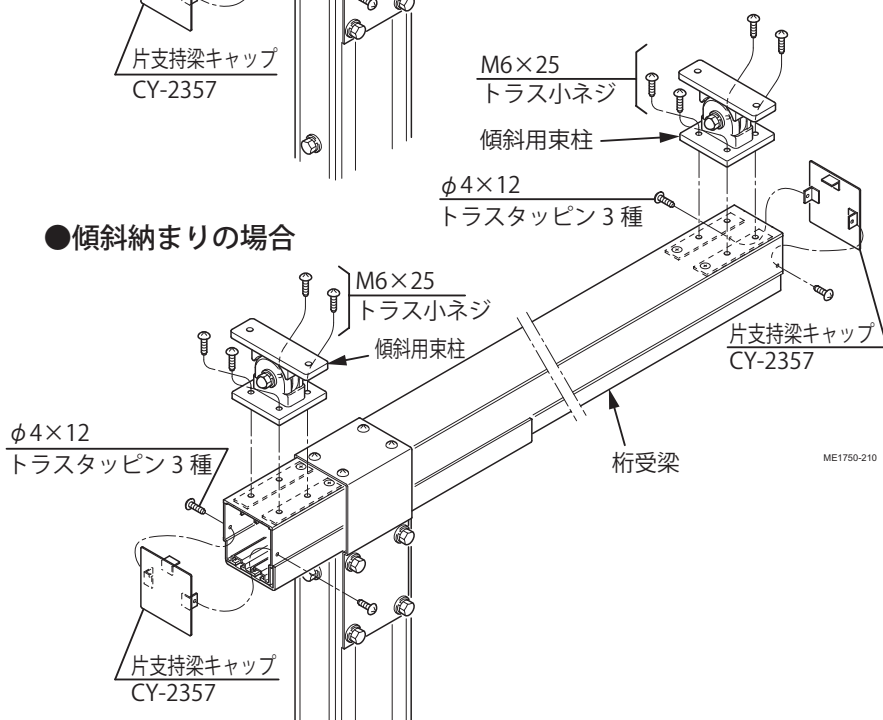
傾斜用束柱を桁受梁に取付けてください。

- ⑦ 片支持梁キャップを桁受梁両端に取付けてください。

● 平地納まりの場合



● 傾斜納まりの場合



3

桁の取付け

- 桁 1 本につき、柱 2 本が標準です。
- 奥行：29 の桁は延長納まりのみになります。

3-1 平地納まりの場合

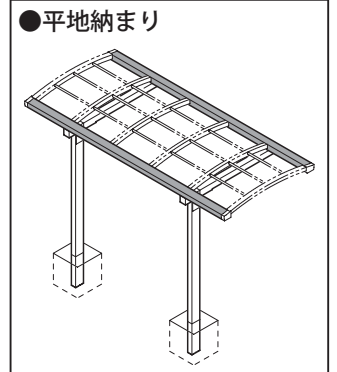
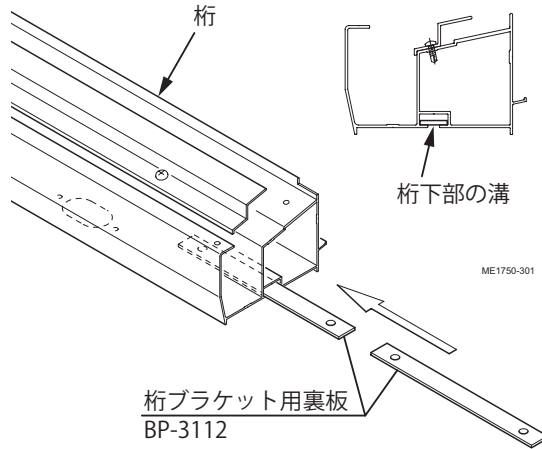
① 桁下部の溝に、桁ブラケット用裏板を挿入してください。



桁 1 本につき裏板を 2 枚挿入してください。ただし、奥行：29 の場合は 1 枚挿入してください。

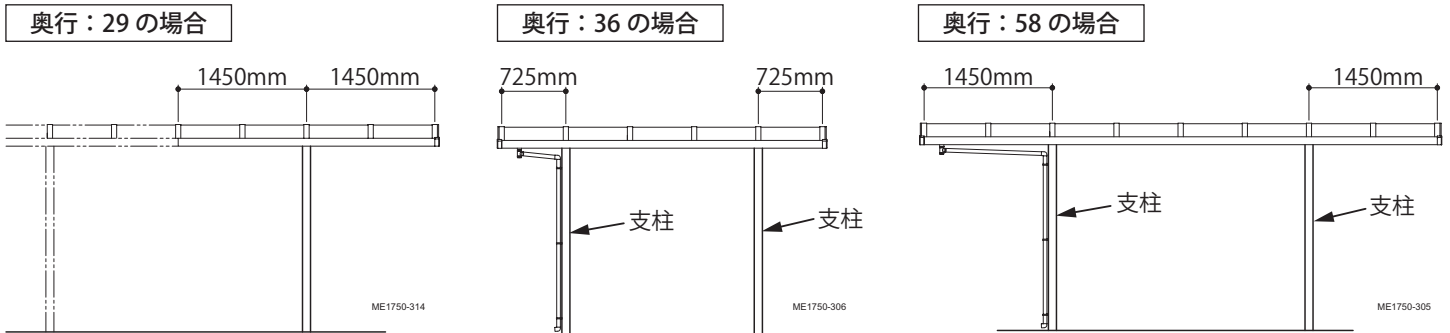


奥行：29 の桁を傾斜ジョイントに連結する場合は、柱が 2 本必要になります。



② 「納まり図」と図を参照して、支柱の取付位置を確認してください。

●取付位置図

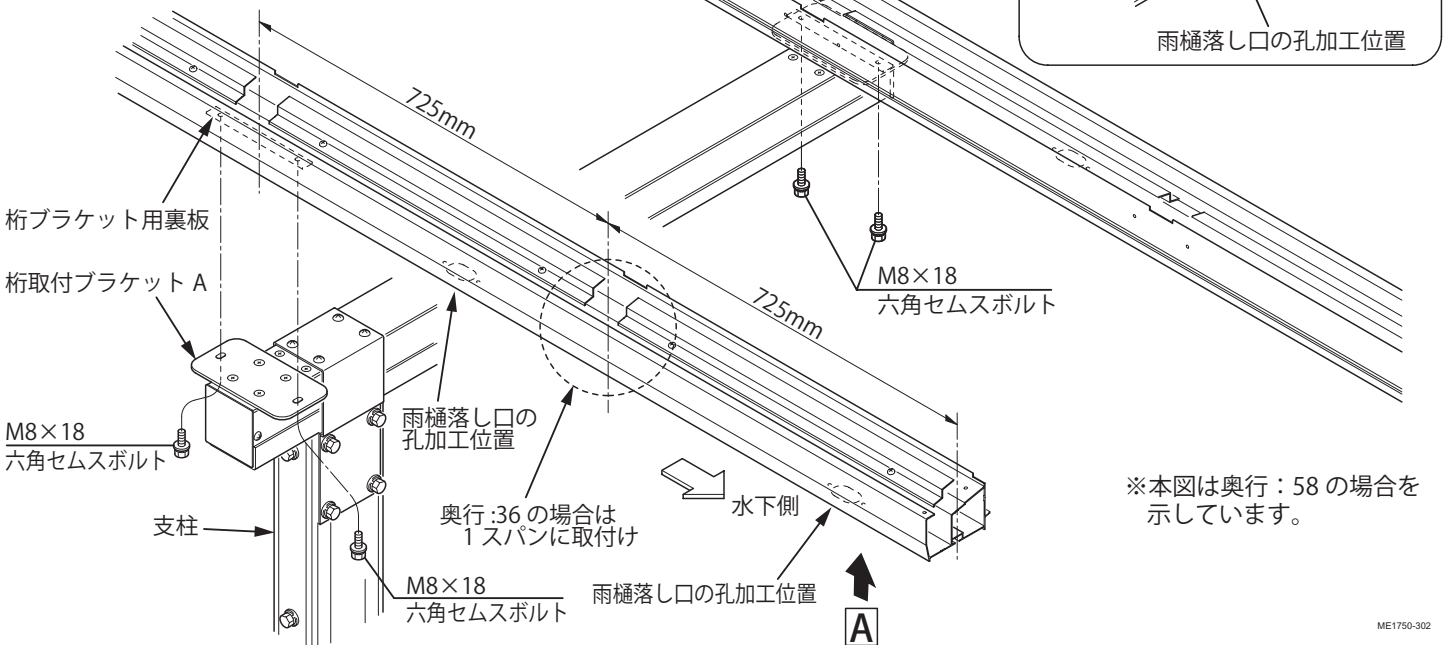
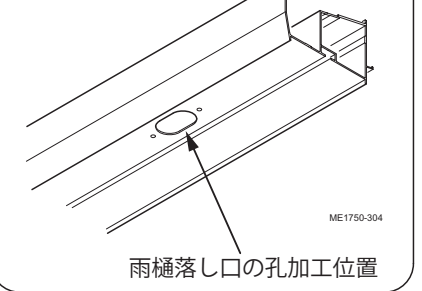


③ 桁を桁取付ブラケット A に仮止めしてください。



- 桁には、雨樋落とし口の孔加工位置により左右があります。
- 雨樋落とし口の孔加工位置を水下側に配置してください。

●Aから見る



3-2 傾斜納まりの場合

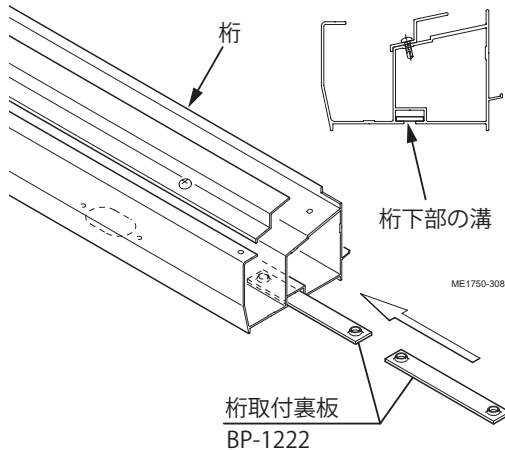
① 桁下部の溝に、桁取付用裏板を挿入してください。



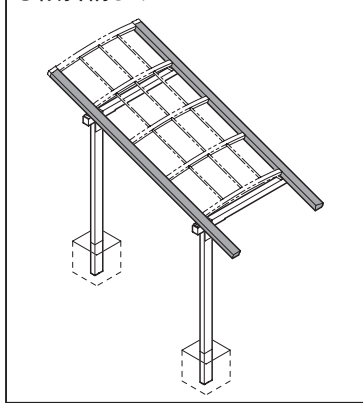
桁1本につき裏板を2枚挿入してください。ただし、奥行：29の場合は1枚挿入してください。



奥行：29の桁を傾斜ジョイントに連結する場合は、柱が2本必要になります。



●傾斜納まり

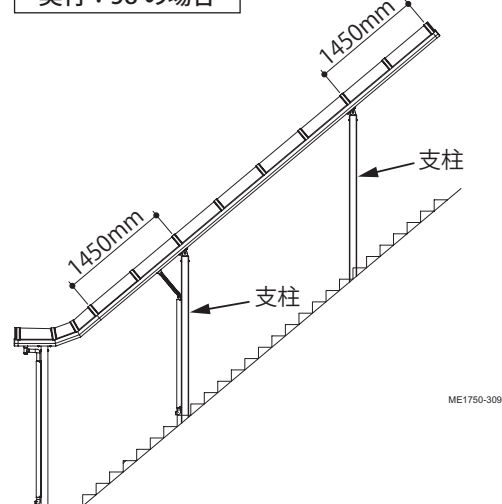
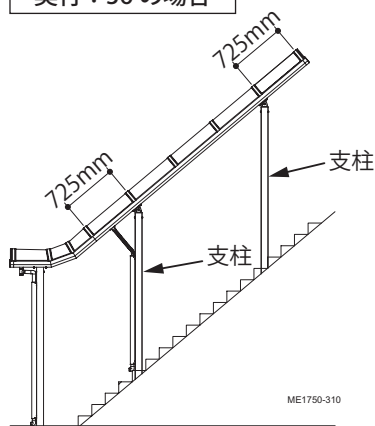


② 「納まり図」と図を参照して、桁の取付位置を確認してください。

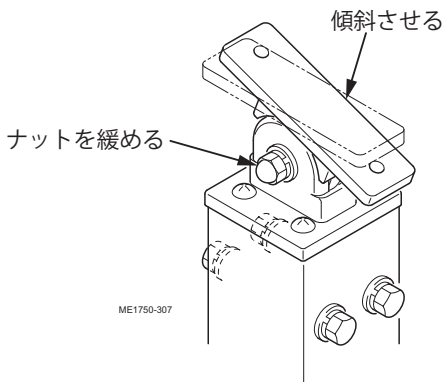
●取付位置図

奥行：36の場合

奥行：58の場合



③ 傾斜用束柱のナットを緩めて、傾斜角度を合わせてください。

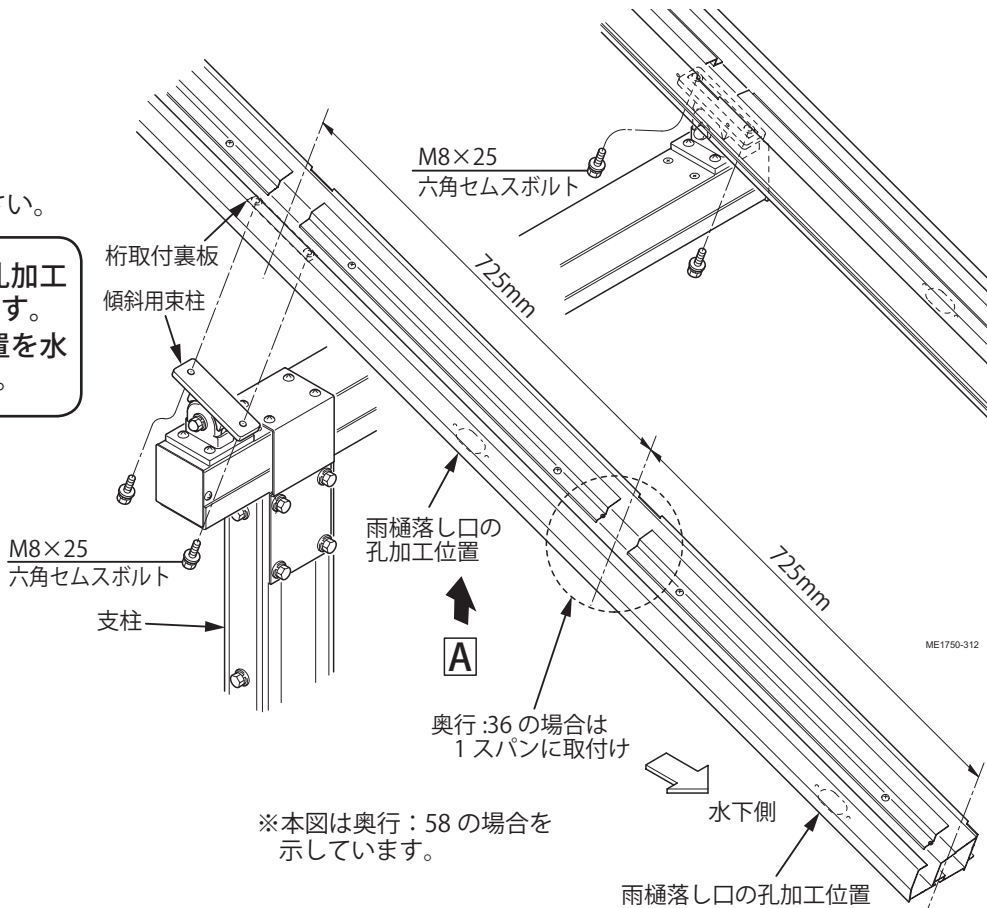
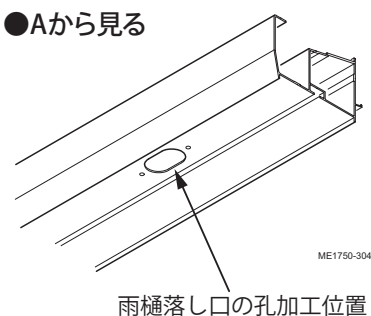


④ 桁を傾斜用束柱に仮止めしてください。



- 桁には、雨樋落とし口の孔加工位置により左右があります。
- 雨樋落とし口の孔加工位置を水下側に配置してください。

●Aから見る



※本図は奥行：58の場合を示しています。

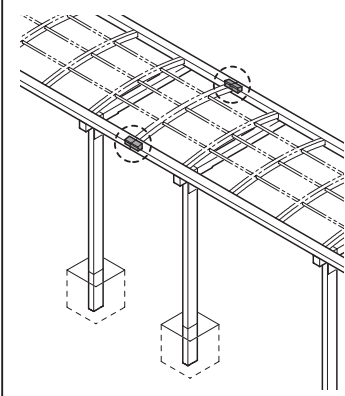
4

桁の連結

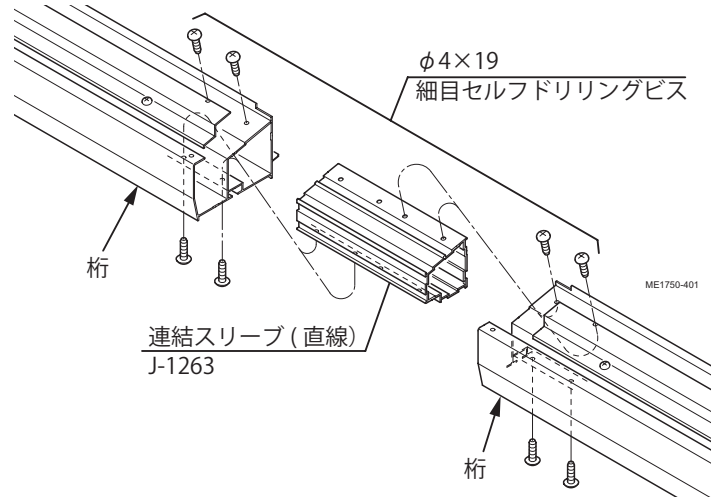
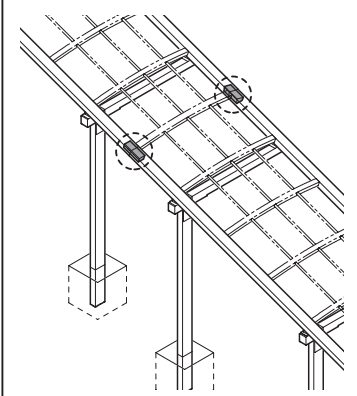
(※連棟・延長納まりの場合)

●連棟・延長納まりの場合に作業を行ってください。
※単体納まりの場合は不要です。

●平地納まり



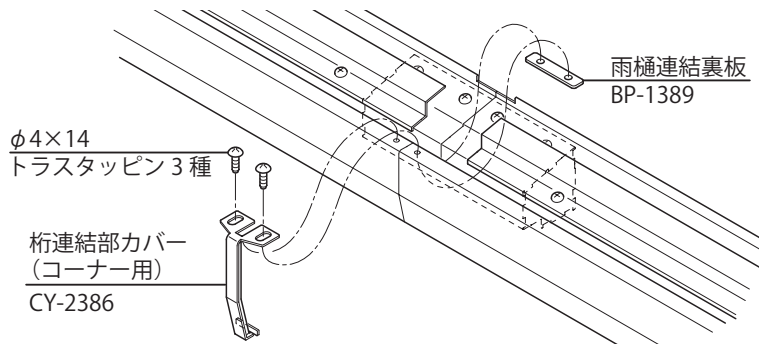
●傾斜納まり



- ① 桁連結スリーブを使用して、2本の桁を連結してください。
- ② 桁連結部カバーの「のり面」の紙をはがし、桁の連結雨樋部に貼付けてください。
- ③ 雨樋連結裏板と桁連結部カバーを共締めしてください。



2本の桁にすき間ができないように連結してください。



- ④ 止水パッキンの「のり面」の紙をはがし、桁の連結部上面に貼付けてください。



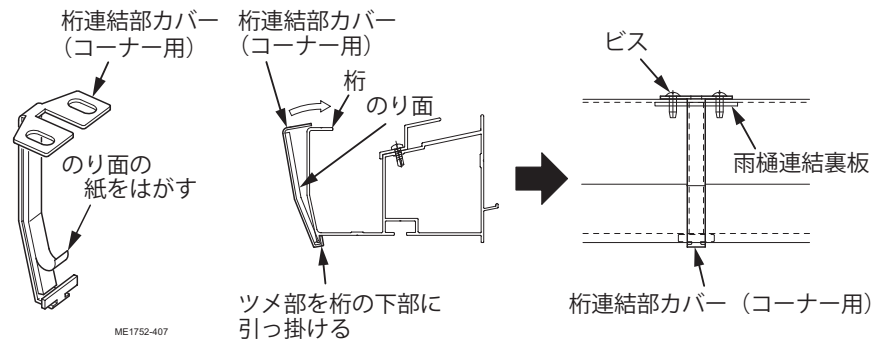
- 桁の形状に合わせて貼付けてください。
- 角部にすき間のないように貼付けてください。

- ⑤ 柱・桁の固定後、止水パッキンの周りにシーリング材で防水処理を行ってください。



防水処理を確実に行ってください。
※防水が不完全だと、雨漏りなどの原因になります。

●桁連結部カバーの取付方法



のり面の紙をはがす

止水パッキン
FO-1438

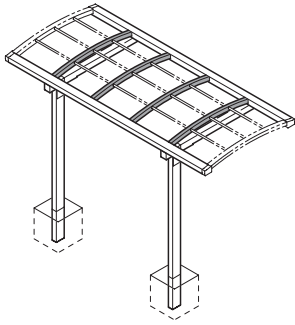
桁の形状に合わせて、
のり面を貼付け

シーリング材

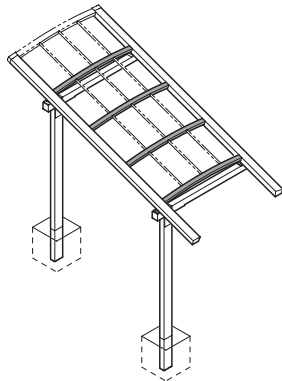
5

垂木の取付け

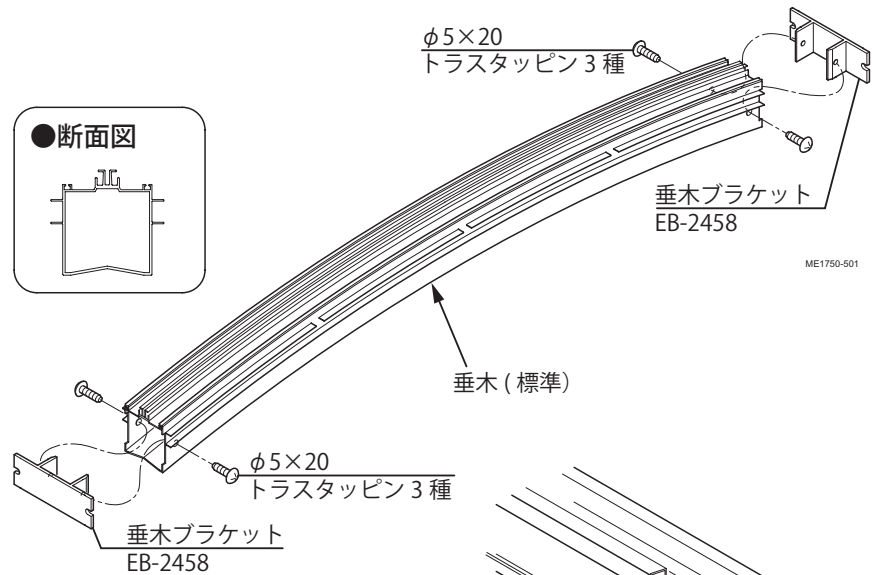
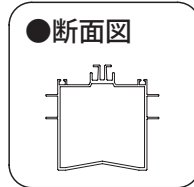
●平地納まり



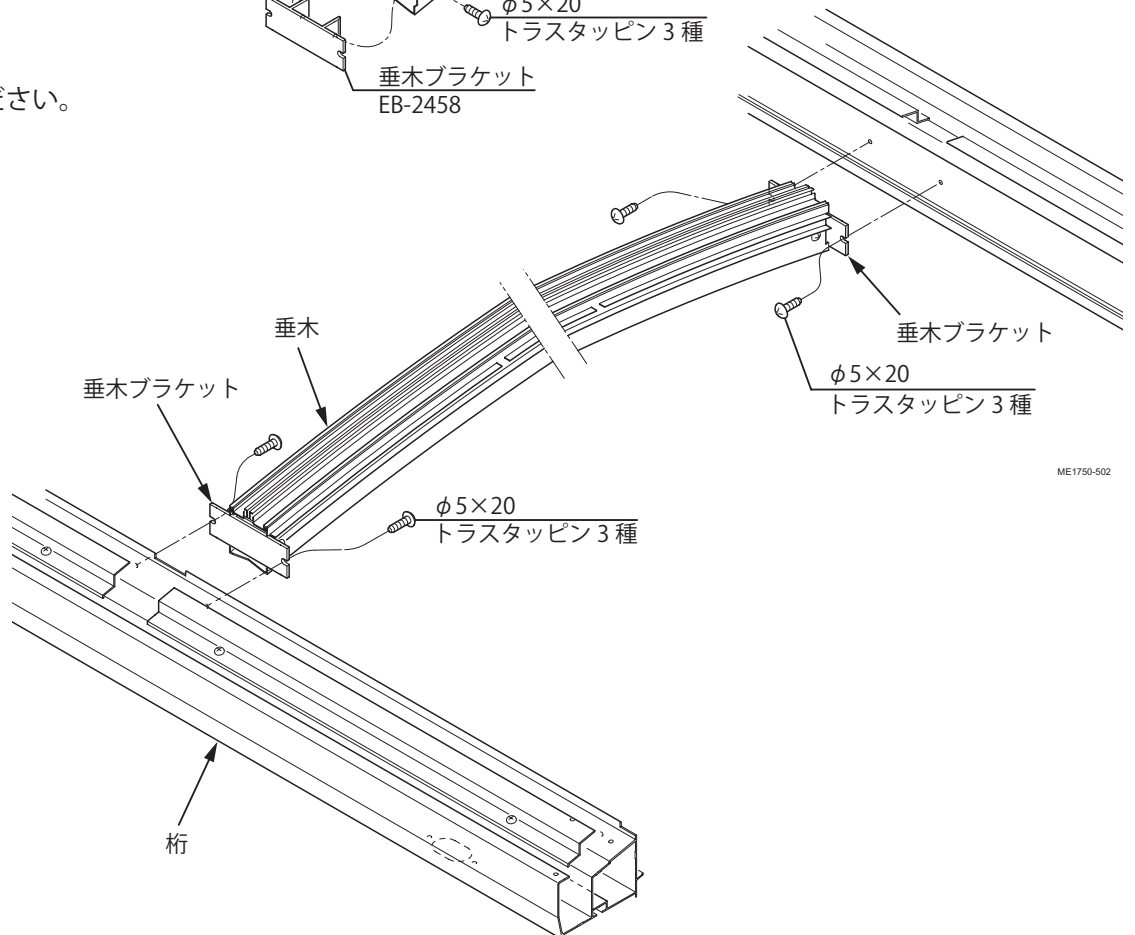
●傾斜納まり



①垂木ブラケットを垂木の両端に取付けてください。



②垂木を桁に取付けてください。



- ③垂木排水部品を垂木の両側に取付けてください。

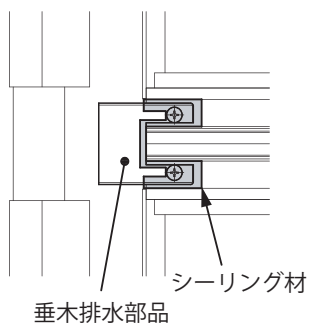


右図を参照して、垂木排水部品と垂木にすき間のないようにしてください。

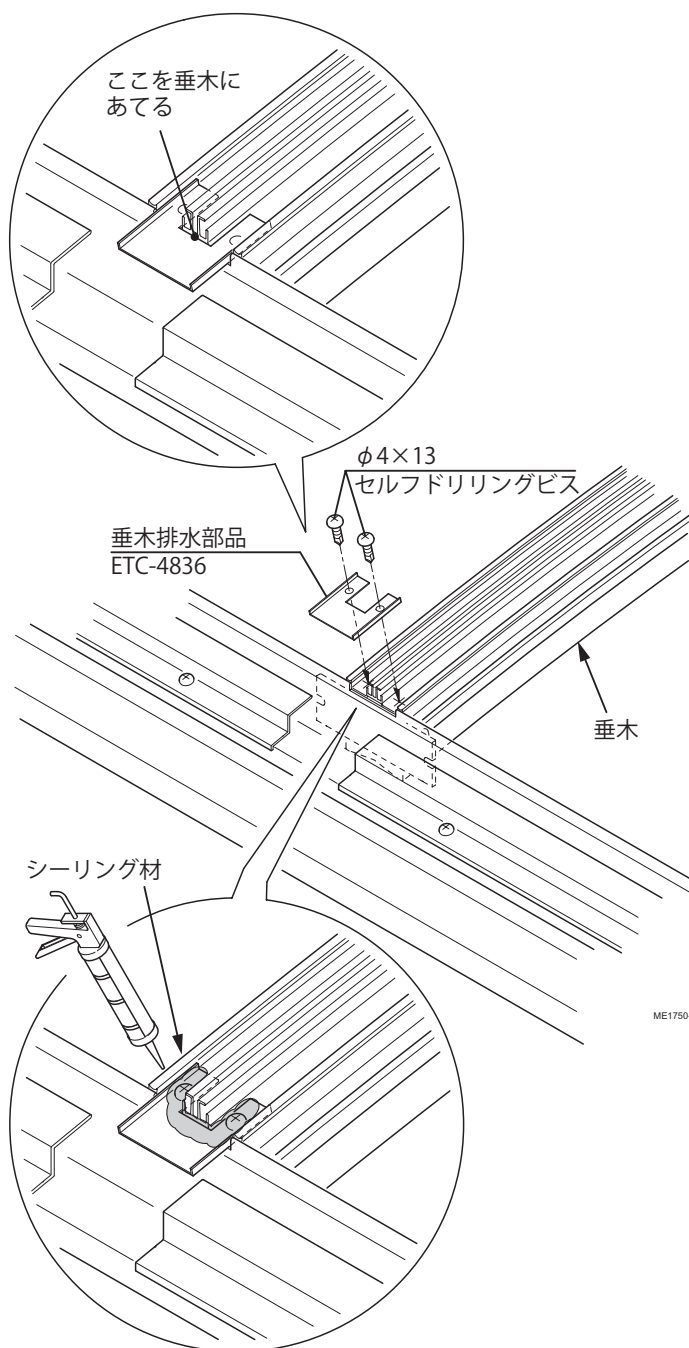
- ④垂木排水部品の取付部にシーリング材で防水処理を行ってください。



防水処理を確実に行ってください。
※防水が不完全だと、雨漏りなどの原因になります。



ME1750-504

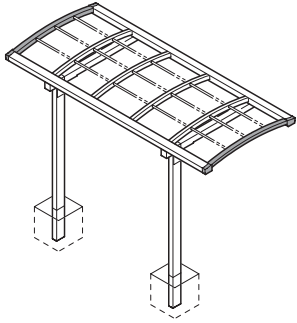


ME1750-503

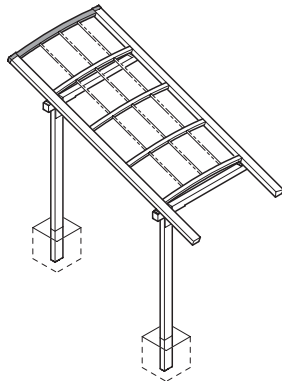
6

側枠の取付け

●平地納まり



●傾斜納まり



6-1 施工前の確認

- 本説明書では側枠の基本的な取付手順を説明しています。
- 各タイプごとの施工説明書を参照して、側枠の取付位置を確認してください。

平地納まりの場合

- ・直角コーナー納まりの場合は、直角コーナーユニットの施工説明書 [ME-1752] を参照してください。
- ・R コーナー納まりの場合は、R コーナーユニットの施工説明書 [ME-1753] を参照してください。

傾斜納まりの場合

- ・傾斜ジョイントまたはエンド底が取付きます。傾斜用ユニットの施工説明書 [ME-1751] を参照してください。

6-2 側枠の取付け

- ①桁端部ブラケットを側枠の両端に取付けてください。



桁端部ブラケットの左右を間違えないようにしてください。

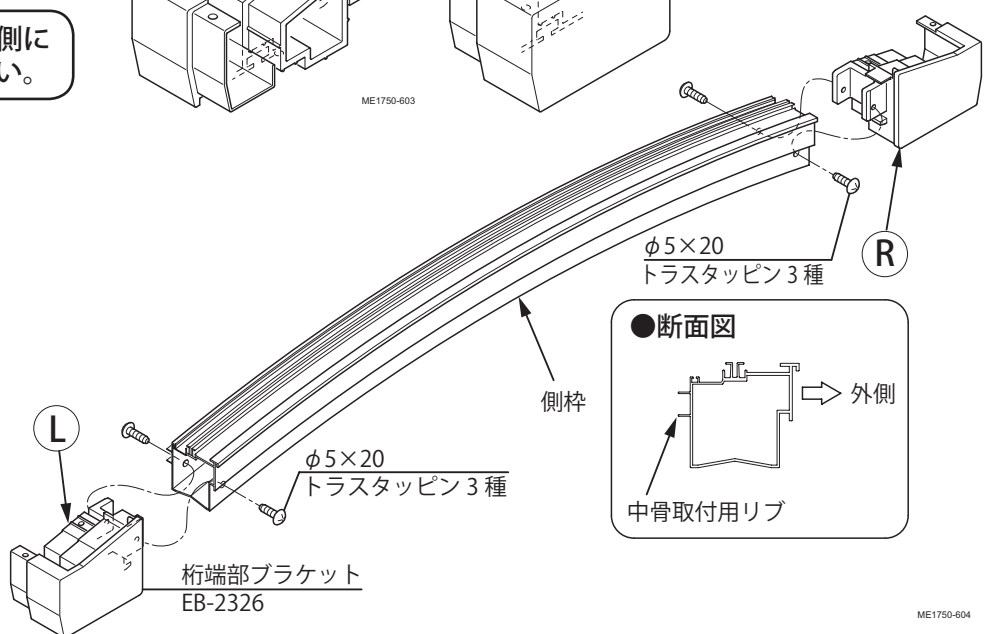
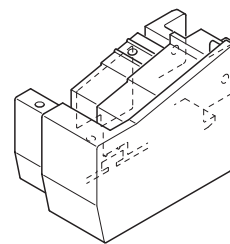
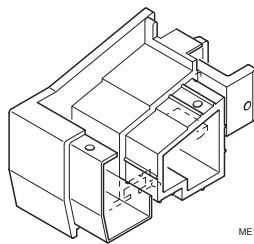


側枠の中骨取付用リブが内側になる向きで取付けてください。

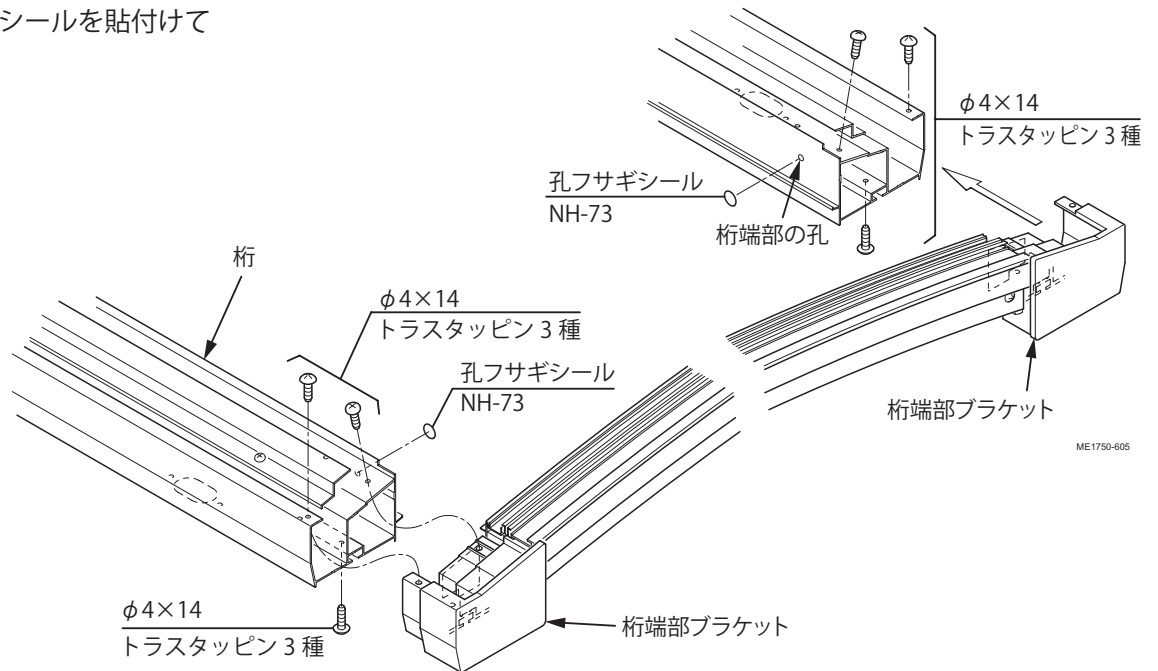
●桁端部ブラケットの左右

右用 (R)

左用 (L)

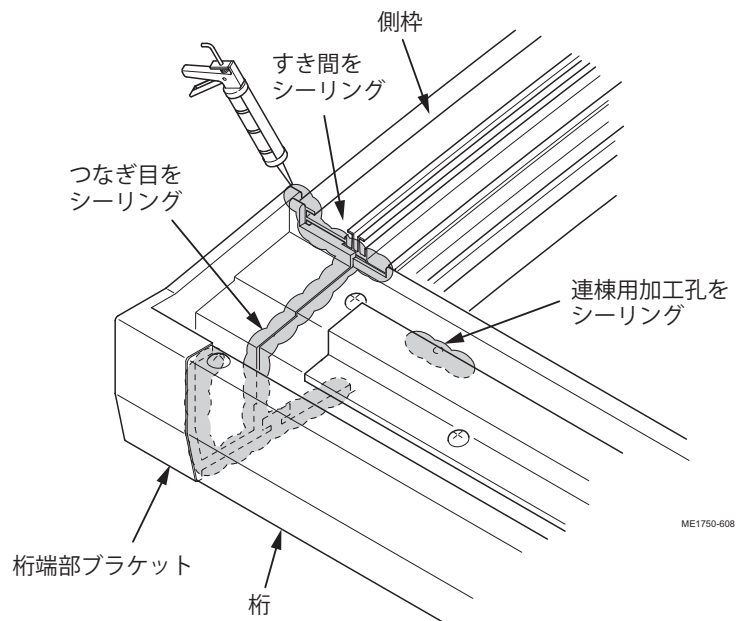


- ②側枠を桁に取付けてください。
- ③桁端部の孔に孔フサギシールを貼付けてください。



- ④桁端部ブラケットと桁のつなぎ目、および桁端部ブラケットと側枠のすき間にシーリング材で防水処理を行ってください。
- ⑤桁の連棟用加工孔をシーリング材でふさいでください。

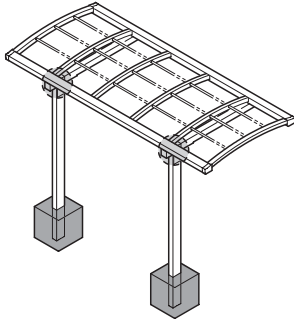
! 防水処理を確実に行ってください。
※防水が不完全だと、雨漏りなどの原因になります。



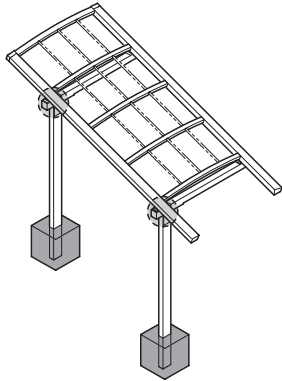
7

桁の本締めと コンクリートの打ち込み

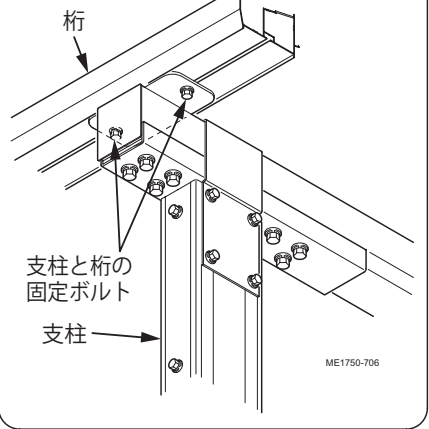
●平地納まり



●傾斜納まり



●Aから見る



①屋根の対角を合わせて、支柱と桁の固定ボルトを本締めしてください。

●平地納まりの場合



屋根の対角を確実に合わせてください。



支柱の間隔・垂直・平行レベルを正確に合わせてください。

※レベルが合っていないと、屋根材の取付不良の原因になります。



柱固定後、各連結部にシーリング材で防水処理を行ってください。

※防水処理を確実に行ってください。不完全だと、雨漏りなどの原因になります。

②コンクリートを流し込んでください。

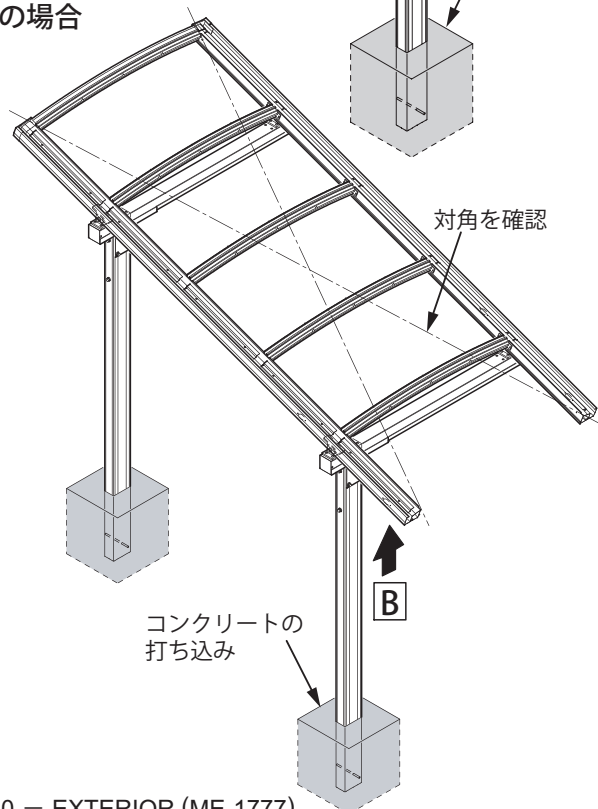
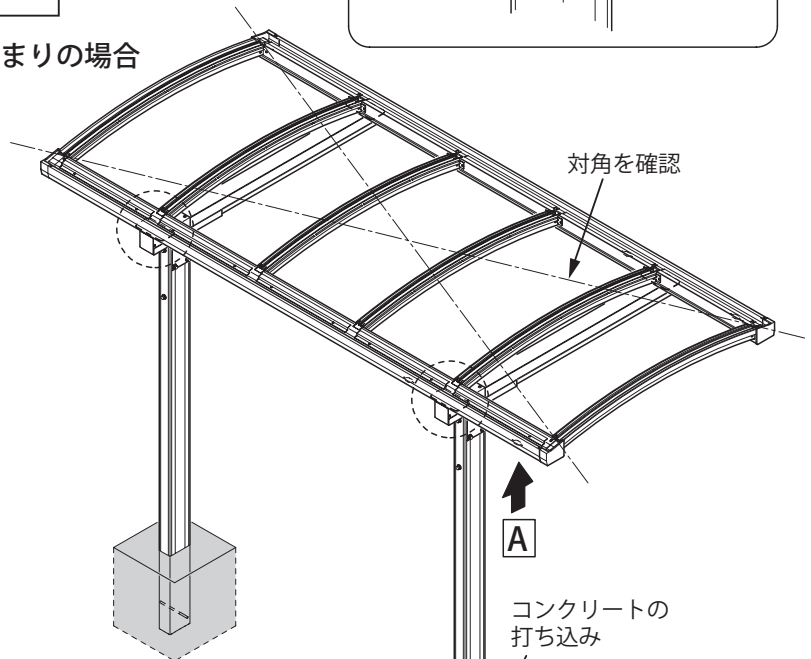
③コンクリートが固まるまで養生してください。

●傾斜納まりの場合

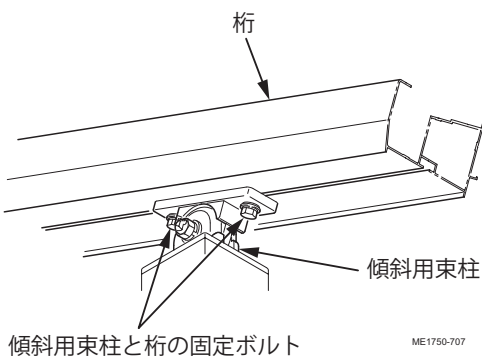


●埋め込み寸法：500mm

●養生期間：4日～1週間



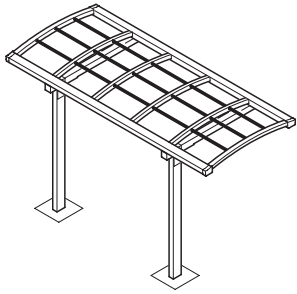
●Bから見る



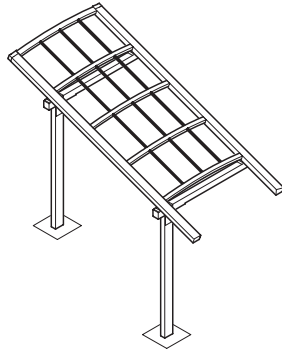
8

中骨の取付け

●平地納まり



●傾斜納まり



8-1 施工前の確認

- 本説明書では中骨の基本的な取付手順を説明しています。
- 各タイプごとの施工説明書を参照して、中骨の取付位置を確認してください。

平地納まりの場合

- ・直角コーナー納まりの場合は、直角コーナーユニットの施工説明書 [ME-1752] を参照してください。
- ・Rコーナー納まりの場合は、Rコーナーユニットの施工説明書 [ME-1753] を参照してください。

傾斜納まりの場合

- ・傾斜ジョイントまたはエンド庇が取付きます。傾斜用ユニットの施工説明書 [ME-1751] を参照してください。

8-2 中骨の取付け

- ①中骨を側枠・垂木の切欠きにかちッと音がするまではめ込んでください。

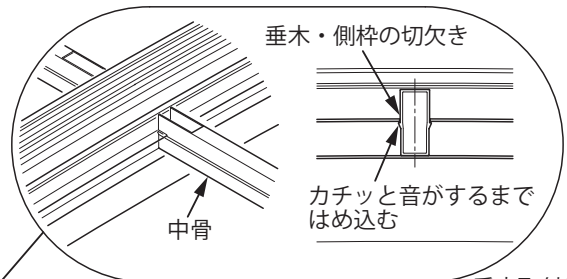
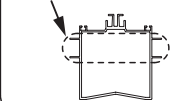


中骨の上下を間違えないようにしてください。

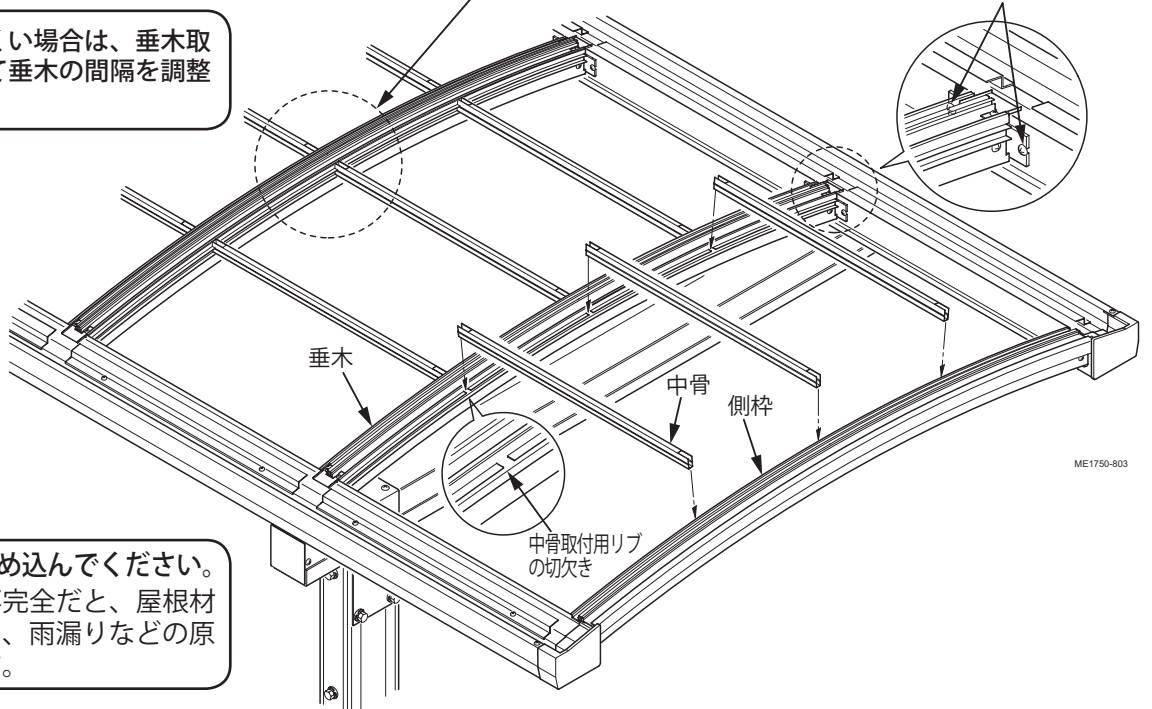
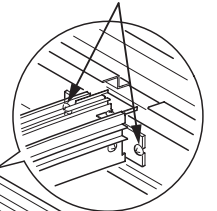


中骨が入りにくい場合は、垂木取付ビスを緩めて垂木の間隔を調整してください。

●垂木断面図
中骨取付用のリブ



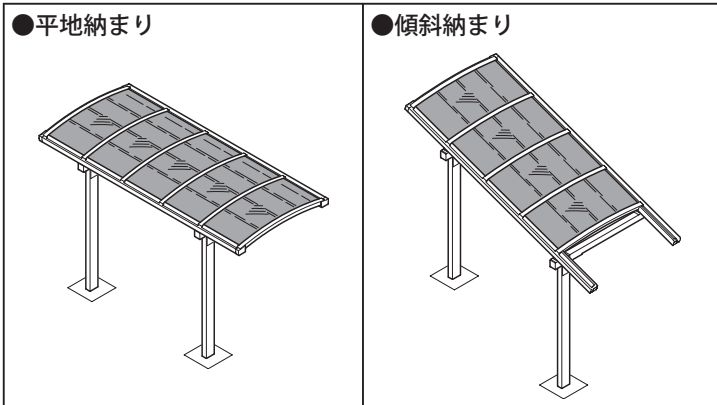
垂木取付ビス



中骨を確実にめ込んでください。
※はめ込みが不完全だと、屋根材が浮き上がり、雨漏りなどの原因になります。

9

屋根材の取付け



9-1 施工前の確認

- 本説明書では屋根材の基本的な取付手順を説明しています。
- 各タイプごとの施工説明書を参照して、屋根材の取付位置を確認してください。

平地納まりの場合

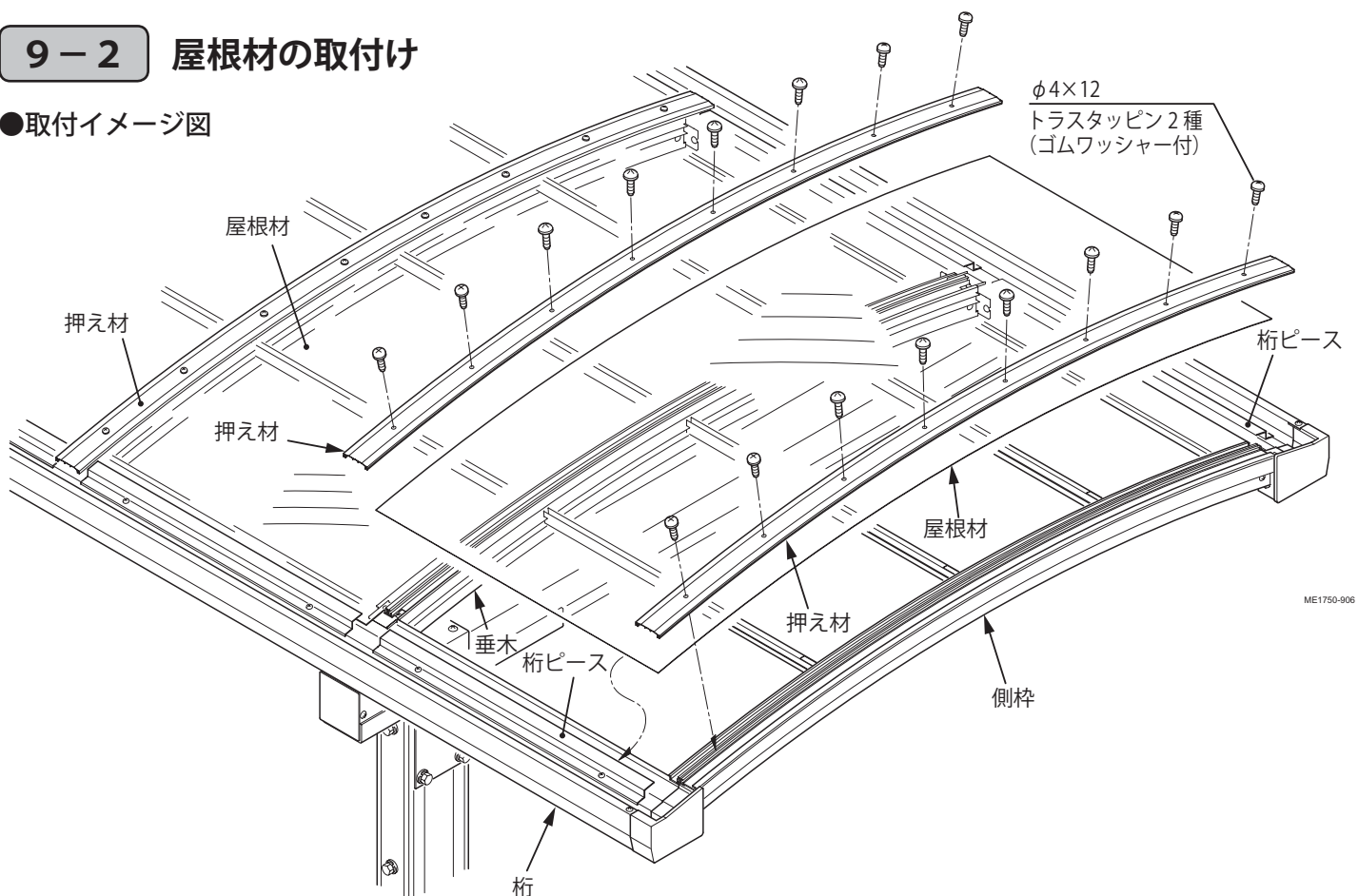
- ・直角コーナー納まりの場合は、直角コーナーユニットの施工説明書 [ME-1752] を参照してください。
- ・R コーナー納まりの場合は、R コーナーユニットの施工説明書 [ME-1753] を参照してください。

傾斜納まりの場合

- ・傾斜ジョイントまたはエンド底が取付きます。傾斜用ユニットの施工説明書 [ME-1751] を参照してください。

9-2 屋根材の取付け

●取付イメージ図



ME1750-906

①屋根材のマスキングシートをはがしてください。

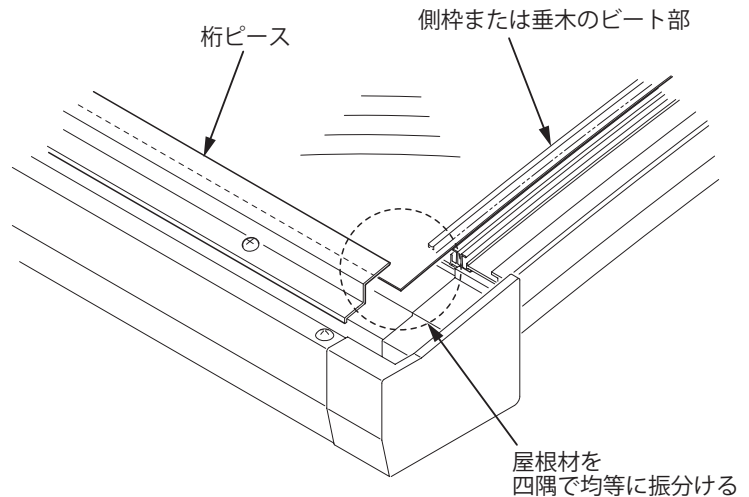


- 材質がポリカーボネートの場合は、表・裏があります。
- マスキングシートに天面表示があります。はがす前に確認してください。

②屋根材を桁ピースに差し込み、側枠または垂木のビード部に均等に載せてください。



屋根材を四隅で均等に振り分けてください。

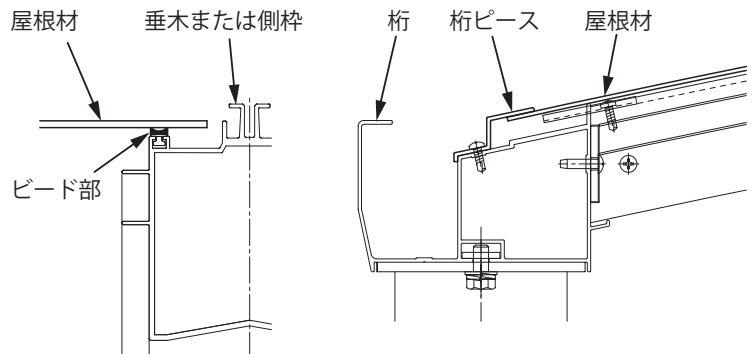


ME1750-903

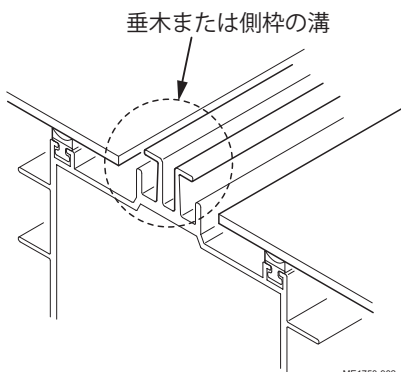
③押え材を垂木および側枠の溝に、ビスで固定してください。



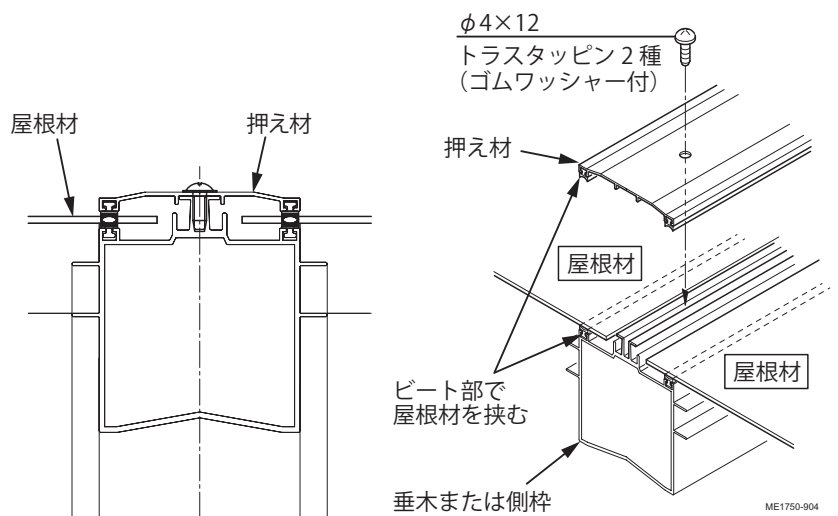
- 押え材をビス止めするとき、インパクトドライバーを使用しないでください。
- ビスが空回りする場合は、ペンチなどで垂木または側枠の溝を狭めてから再度ビス止めしてください。



ME1750-905



ME1750-902



ME1750-904

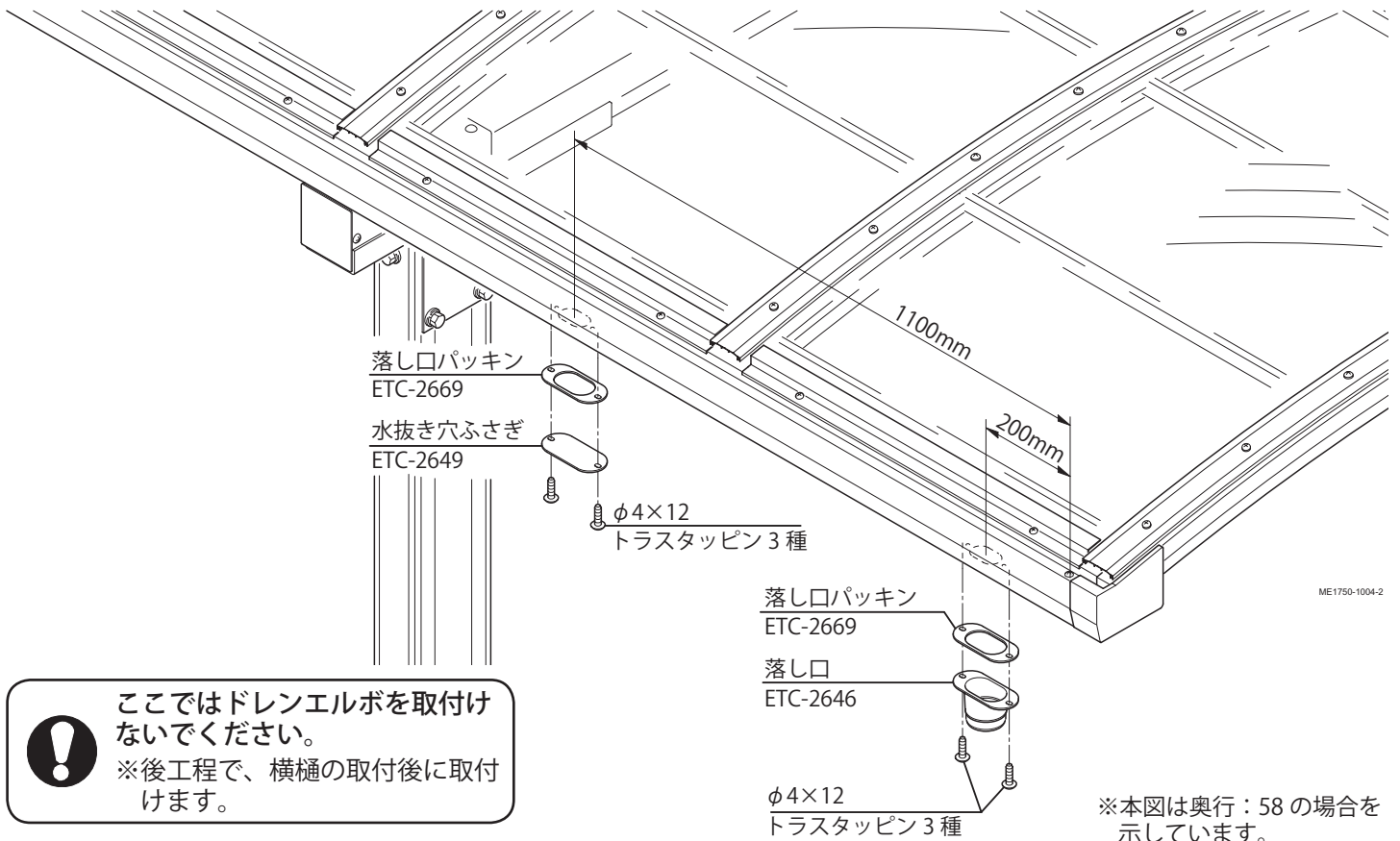
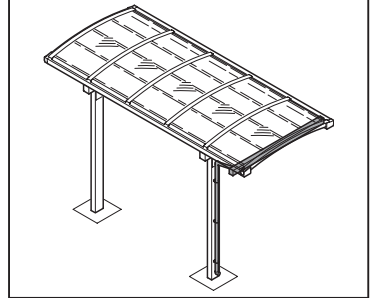
10A

雨樋の取付け

(※平地納まりの場合)

- ① 桁端部より 1100mm の雨樋落し口の加工孔に、落し口パッキン・水抜き穴ふさぎを取付けてください。
- ② 桁端部より 200mm の雨樋落し口の加工孔に、落し口パッキン・落し口を取付けてください。

●平地納まり

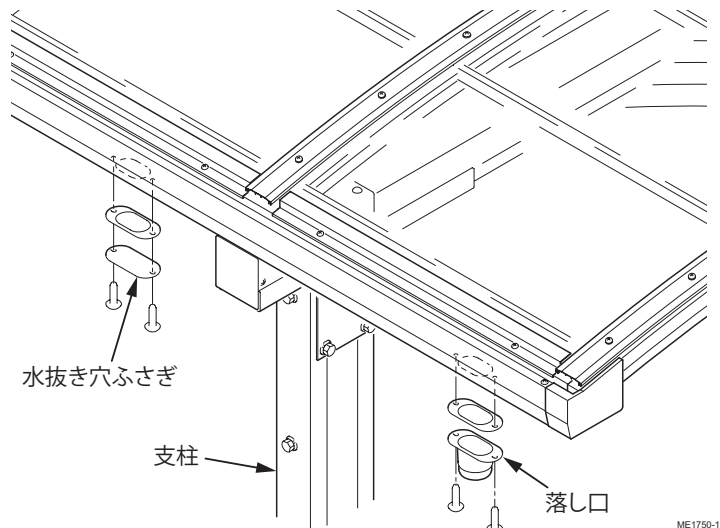


※本図は奥行：58 の場合を示しています。



奥行：36 の場合は、落し口と水抜き穴ふさぎの間に支柱が入ります。

●奥行：36 の場合



③片支持用横樋を現場合わせて切断してください。



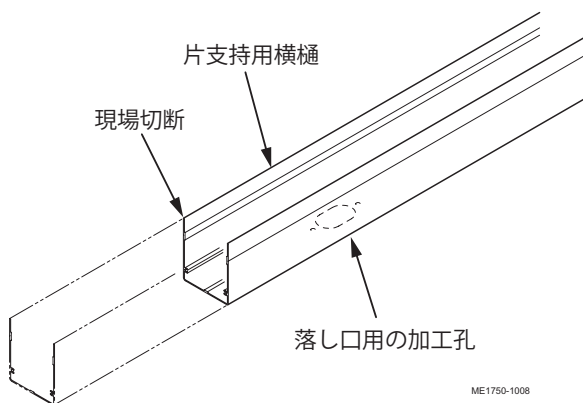
落し口用の加工孔が支柱の正面となるように切断してください。



柱位置標準の場合は、切断位置は加工孔（芯）から 202mm になります。
※上記は参考寸法になります。現場合わせて切断してください。

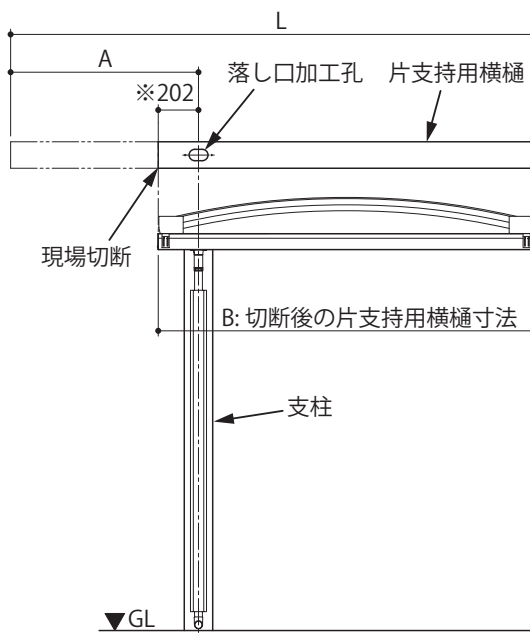
●横樋寸法表（参考寸法）

D: 間口サイズ	L	A	B
12 : 1180	1547	583	1166
17 : 1680	2297	833	1666
20 : 1980	2747	983	1966
23 : 2280	3197	1133	2266



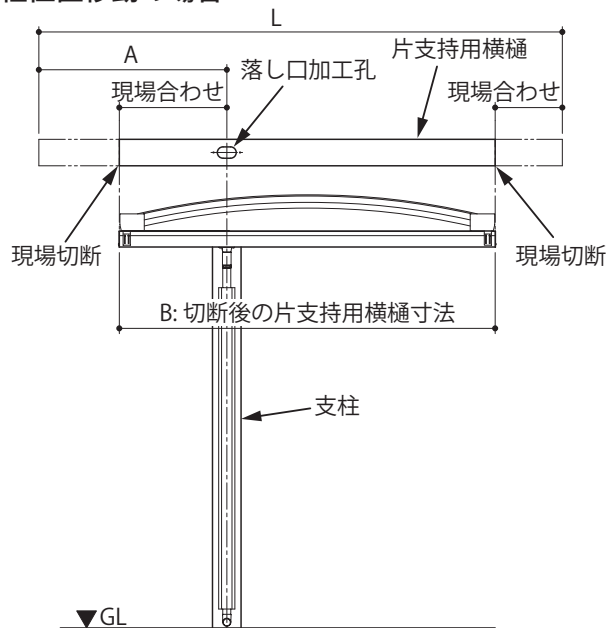
ME1750-1008

●柱位置標準の場合



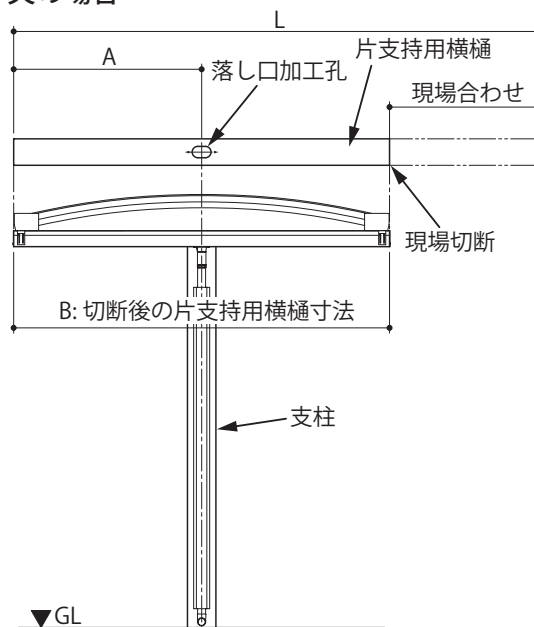
ME1750-1005

●柱位置移動の場合



ME1750-1006

●柱位置中央の場合



ME1750-1007

雨樋の取付け

- ④ 端部キャップを片支持用横樋の両端に取付けてください。
- ⑤ 端部キャップの内側にシーリング材で防水処理を行ってください。

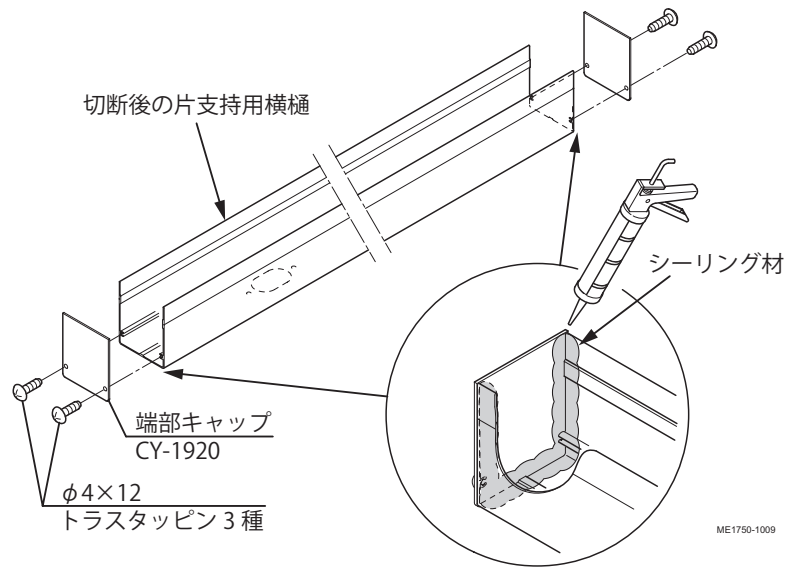


防水処理を確実に行ってください。
 ※防水が不完全だと、雨漏りなどの原因になります。

- ⑥ 桁下部の溝にひし形ボルト頭を挿入し、90°回転させてください。(4ヶ所)
- ⑦ 連棟樋取付金具をひし形ボルトとナット・座金で固定してください。
- ⑧ 片支持用横樋を落し口にかぶせて、取付金具に取付けてください。

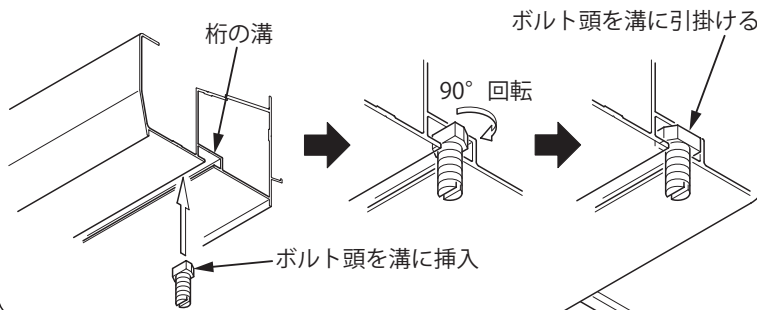


取付金具の長孔を使用して水勾配をつけてください。

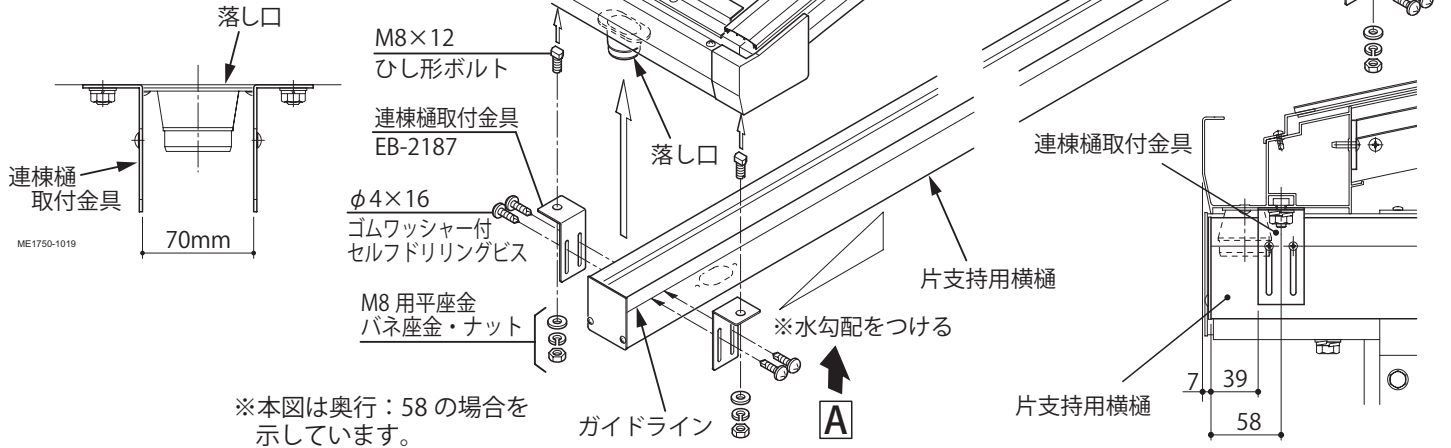


ME1750-1009

●ひし形ボルトの使い方(Aから見る)



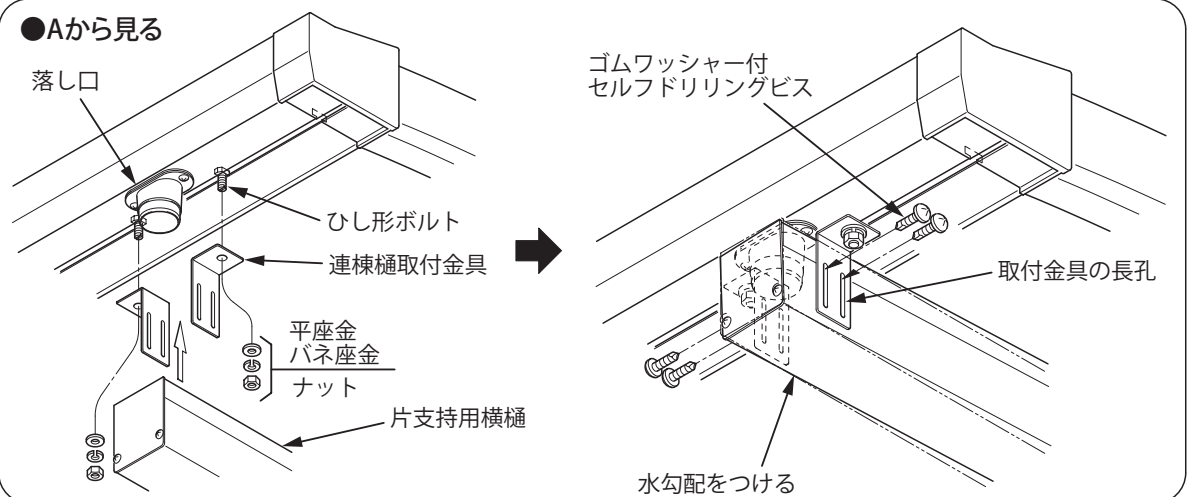
●取付部平面図



※本図は奥行：58の場合を示しています。

ME1750-1010

●Aから見る

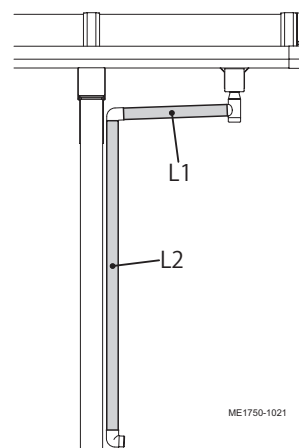


⑨縦樋を現場合わせて切断してください。

●縦樋標準寸法表 (柱移動なしの場合)

(mm)

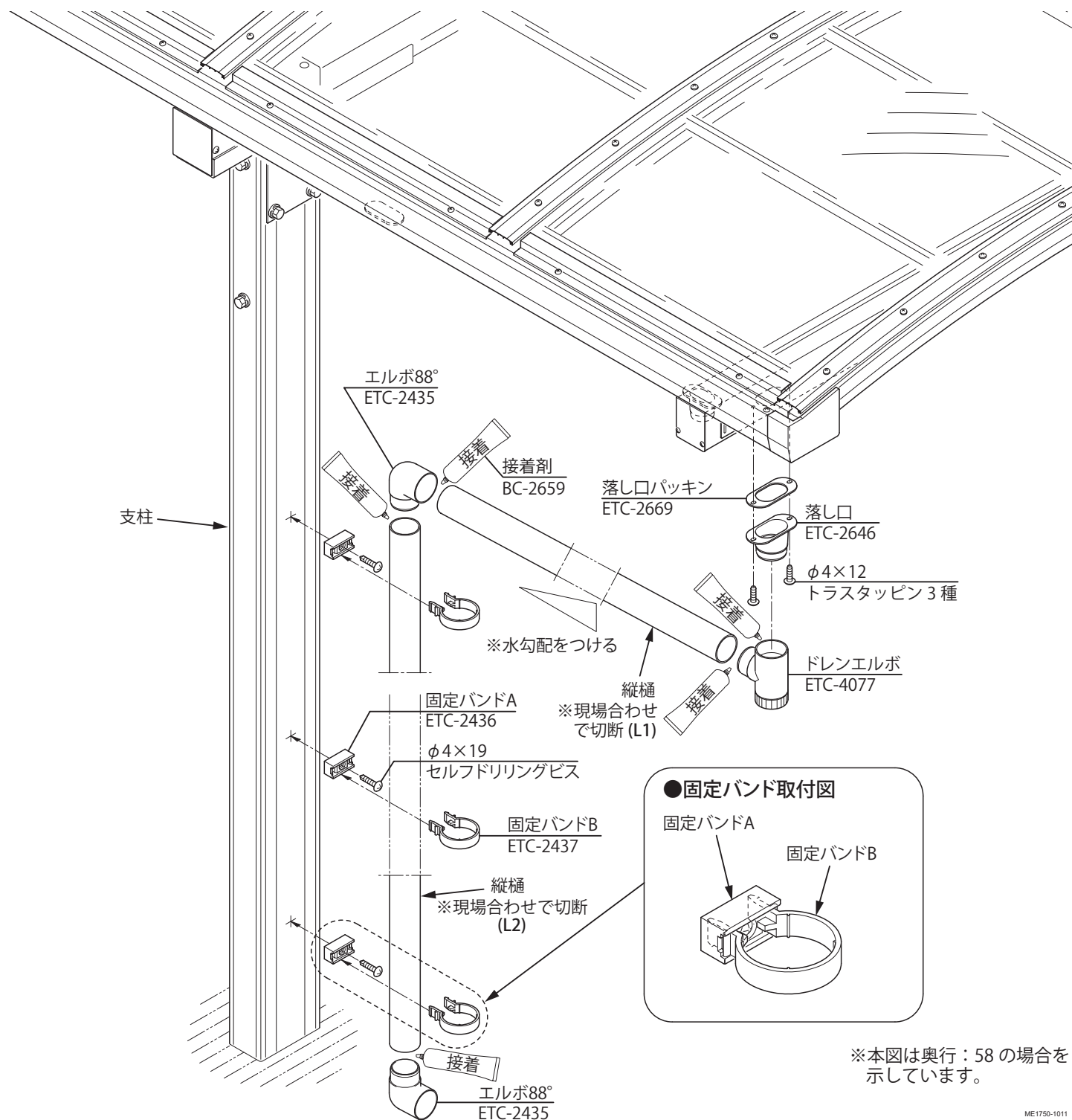
		奥行：58・29	奥行：36
L2	標準柱	1045	1870
	長柱	2245	2270



⑩図を参照して、その他の部品を仮組みし、接着剤で固定してください。

! はみ出した接着剤はきれいに取り除いてください。

⑪支柱側の縦樋を固定バンドで支柱に固定してください。



10B

雨樋の取付け

(※傾斜納まりの場合)

●奥行によって雨樋の位置が異なります。

奥行：58の場合



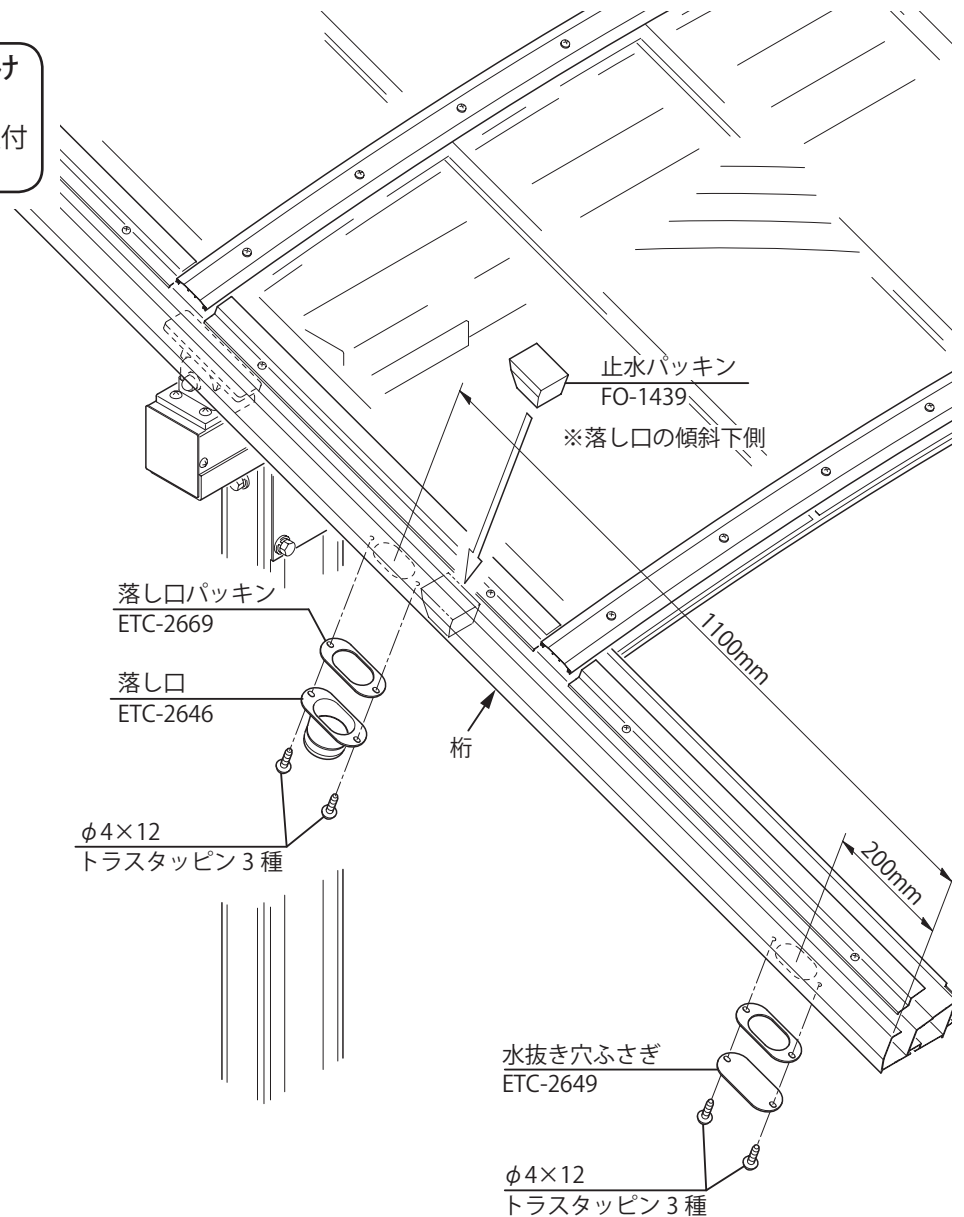
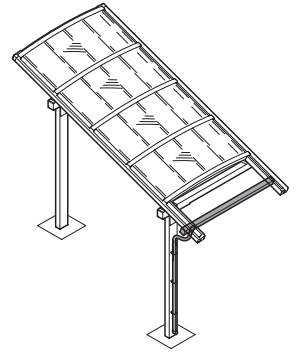
奥行：36の場合は、29ページを参照してください。

- ①桁端部より 200mm の雨樋落とし口の加工孔に、落とし口パッキン・水抜き穴ふさぎを取付けてください。
- ②桁端部より 1100mm の雨樋落とし口の加工孔に、落とし口パッキン・落とし口を取付けてください。



ここでは雨樋ジャバラを取付けないでください。
※後工程で、横樋の取付後に取付けます。

●傾斜納まり



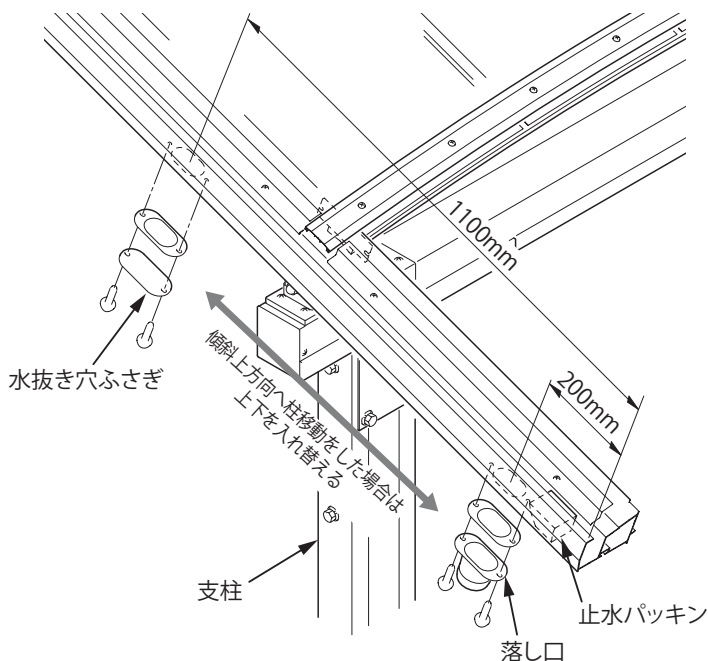
※本図は奥行：58の場合を示しています。

奥行：36の場合

- ① 桁端部より 200mm の雨樋落とし口の加工孔に、落とし口パッキン・落とし口を取付けてください。
- ② 桁端部より 1100mm の雨樋落とし口の加工孔に、落とし口パッキン・水抜き穴ふさぎを取付けてください。



傾斜上方向に柱移動をした場合、落とし口を上下入れ替えてください。



ME1750-1018-2

奥行：36/58 共通の手順

- ③ 止水パッキンを落とし口の傾斜下側にはめ込んでください。

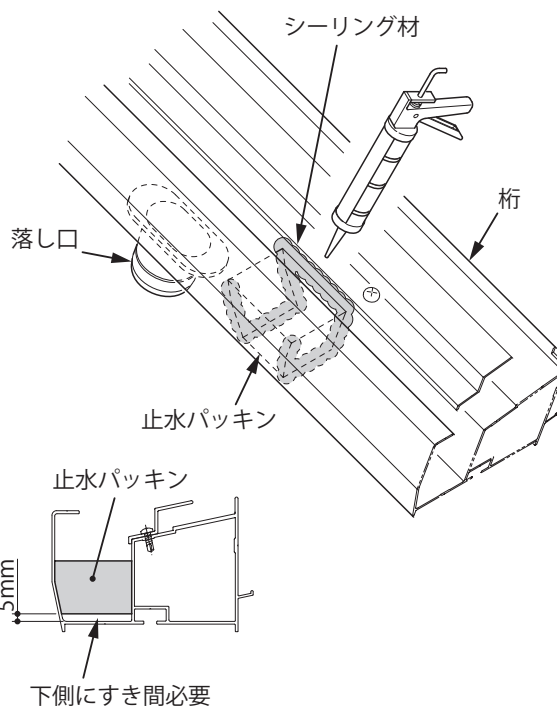


- パッキンに 5mm のすき間をあけてください。
- パッキンには左右があります。桁の形状にあわせて取付けてください。

- ④ 止水パッキンの周りにシーリング材で防水処理を行ってください。



防水処理を確実に行ってください。
※防水が不完全だと、雨漏りなどの原因になります。



ME1750-1014

雨樋の取付け

- ⑤ 25 ~ 26 ページと同じ要領で、横樋を取付けてください。
- ⑥ 縦樋を現場合わせて切断してください。



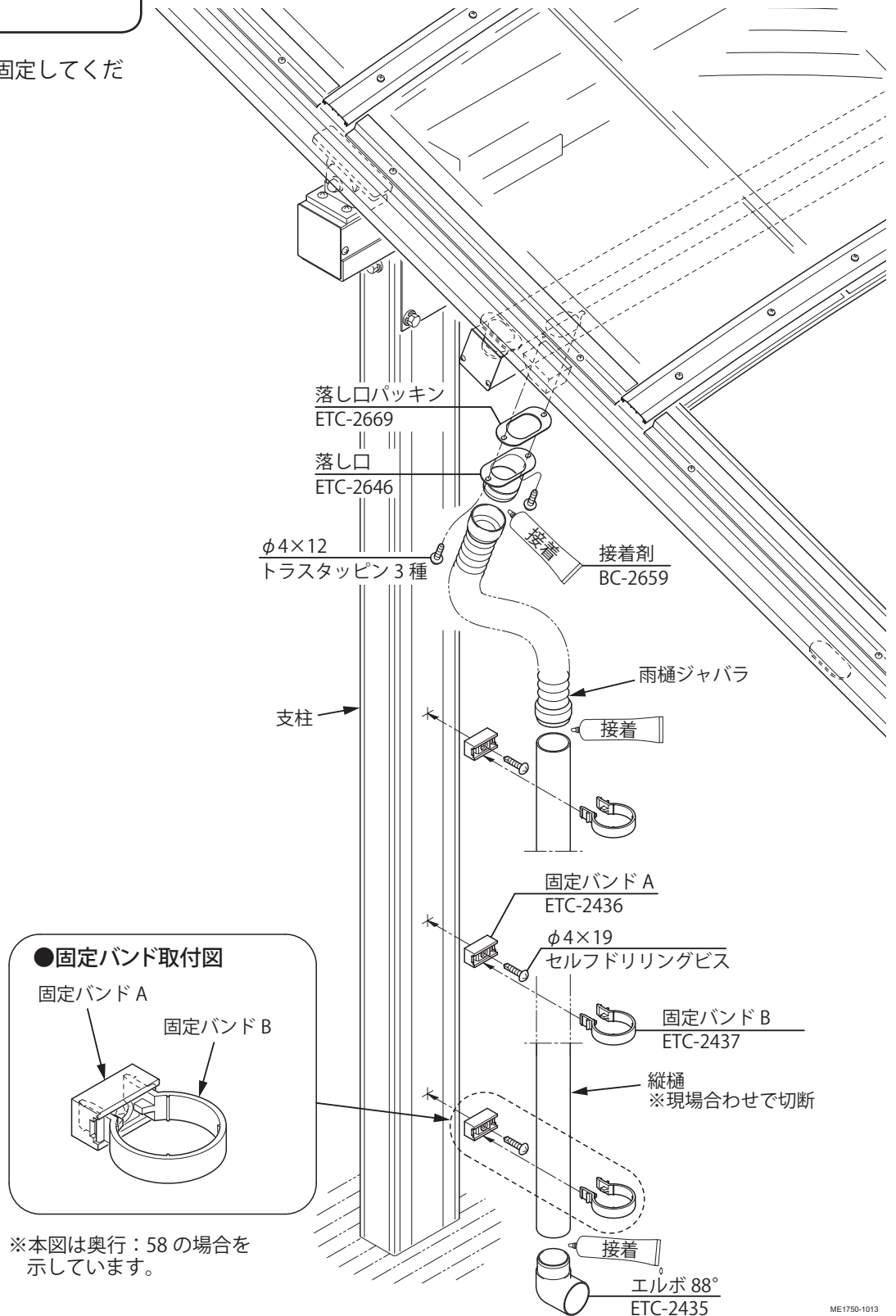
ジャバラ部に水が溜まらないように調整してください。

- ⑦ 図を参照して、その他の部品を仮組みし、接着剤で固定してください。



はみ出した接着剤はきれいに取り除いてください。

- ⑧ 縦樋を固定バンドで支柱に固定してください。

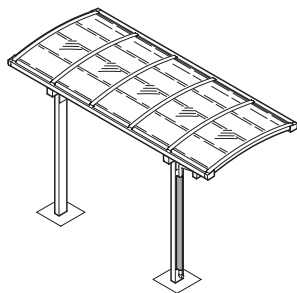


11

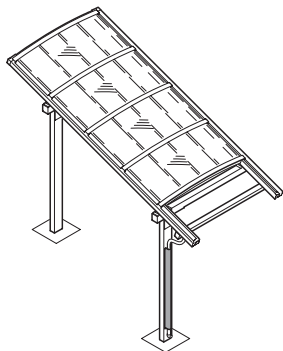
縦樋カバーの取付け

(※オプション)

●平地納まり



●傾斜納まり



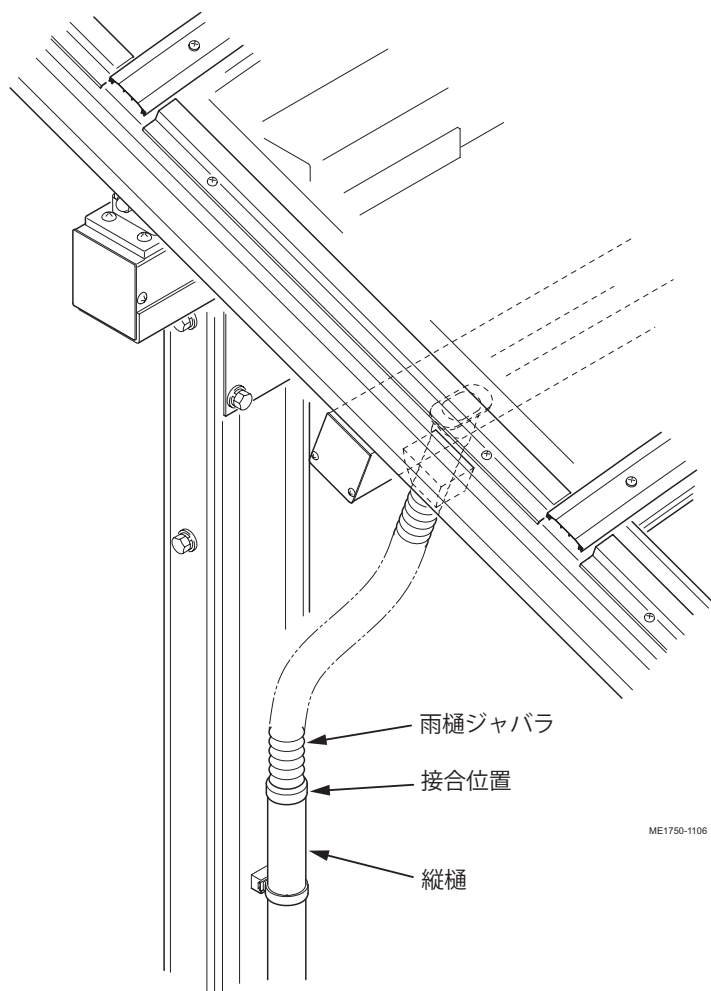
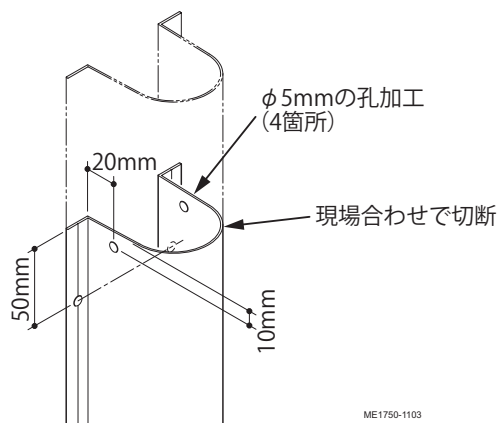
11-1 縦樋カバーの切断 (※傾斜納まりの場合)



傾斜納まりの場合に作業を行ってください。
※平地納まりの場合は不要です。

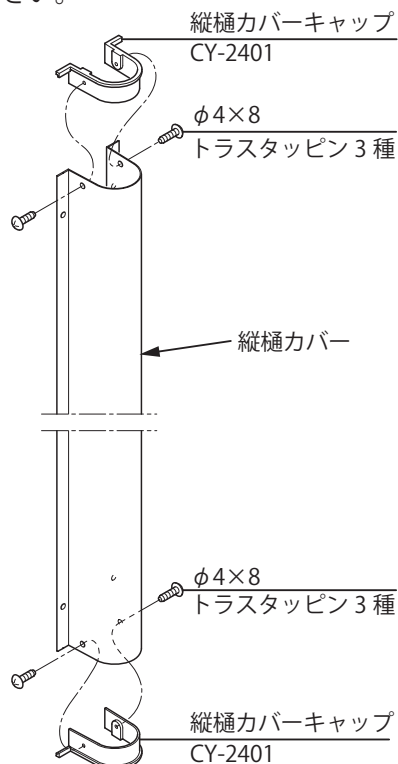
- ①雨樋ジャバラと縦樋の接合位置に合わせて、縦樋カバーを現場合わせて切断してください。
- ②切断後、下図の位置にφ5mmの下孔を4ヶ所あけてください。

●縦樋カバーの切断と下孔加工



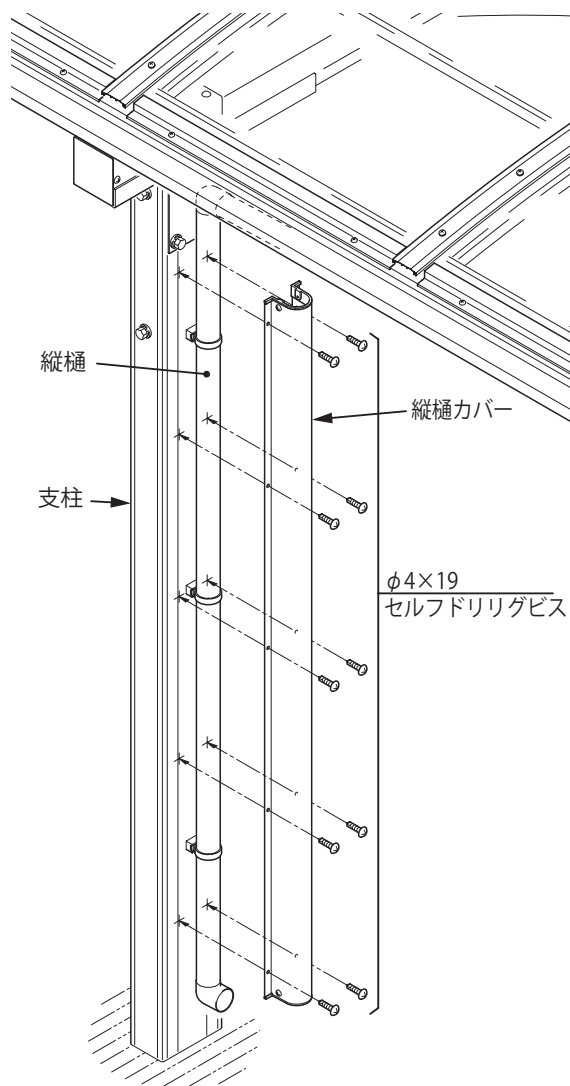
11-2 縦樋カバーの取付け

- ①縦樋カバーキャップを縦樋カバーに取付けてください。



ME1750-1102

- ②縦樋カバーを縦樋に取付けてください。



ME1750-1105


施工完了時の注意事項

- ビス・ボルト類が確実に締め付けられているか確認してください。
- 可動部品については作動チェックを行い、不具合がないか確認してください。また、必要に応じて調整してください。
- 使用上危険な箇所等がないか点検してください。

■施工工事店様、販売店様へのお願い

- 「取扱説明書」に基づき（同梱されているもののみ）商品の使用方法、保守点検方法およびメンテナンス方法を必ず施主様に説明してください。
- この施工説明書は、施工完了後施主様にお渡しください。

施工完了日	年	月	日
施工工事店	TEL ()	-	
販売店	TEL ()	-	

株式会社LIXIL この商品についてのご質問やご相談は右記の窓口にお問い合わせください。 お客様相談センター  0120-126-001